

和仏法律学校講義録

若槻, 禮次郎 / 矢部, 廉 / 松岡, 義正 / 遠藤, 忠次 / 吾孫
子, 勝 / 清水, 澄

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

3-19

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

72

(発行年 / Year)

1903-08-16

第三十六年度八月十六日發行

三十六年度 第三學年ノ十九

和佛法律學子校講義錄



第六百六十六號

和佛法律學校



090
1903
3-1-19

第三學年第十九號目次

民法相續(論二)	法學士 若槻禮次郎
商法手形(論三)完	法學士 矢野 邦 康
破産法(論三)完	法學士 松岡 謙 正
民事訴訟法(自第三編(四〇一)至第五編(四二〇))	法學士 遠藤 忠 次
民事訴訟法(自第六編(四二一)至第八編(四四九))	法學士 香 孫 子
行政法(論三)完	法學士 清 水 滉

編輯者ノ致謝書 ○ 編輯者ノ致謝書 ○ 編輯者ノ致謝書 ○ 編輯者ノ致謝書

タルモノトス之ニ反シテ遺産相續ナルモノハ唯家族ノ特有財産ノ歸屬ヲ定ムルニ過キサルモノナルヲ以テ共同主義ニ依リ男女長幼ヲ問ハス公平ニ各子女ノ間ニ財産ヲ分配スルコト當然ナリ舊民法カ遺産相續ニ付テモ單獨主義ヲ採用シタリシハ予ノ深ク遺憾トスル所ナリシカ民法カ其弊ニ倣ハス共同主義ヲ採用シタルハ事ノ宜キヲ得タルモノナリ

三 相續ノ根基

相續ノ根基ニ關スル觀念ハ其目的ノ如何ニ依リテ自ラ異同ナキコトヲ得ス然レトモ進歩シタル社會ニ於ケル相續ノ效力ハ主トシテ財産ノ承繼ニ在ルカ故ニ學者カ相續ノ根基ヲ論スルハ主トシテ其財産ノ承繼ニ關スル方面ニ於テスルヲ常トス故ニ予モ亦其弊ニ倣ヒ専ラ此點ヨリ立論セントス

相續ノ根基ニ關スル歐洲ノ觀念ハ大別シテ之ヲ三主義ト爲スコトヲ得一意思推定主義ニ親族共有主義三最上權力主義即チ是ナリ

(一) 意思推定主義 (volonté présumée) 意思推定主義トハ相續ヲ以テ所有權ノ發動ト爲スモノニシテ相續ノ根基ヲ被相續人ノ意思ニ置クモノナリ其說ニ曰ク凡

090
1903
3-1-19

ナル事ノトス之ニ反シテ遺產相續ナクハ推家族ノ特有財産ノ歸屬ヲ定メ
ルニ過キサルモノナルヲ以テ共同主義ニ依リ男女長幼ノ間ハ公平ニ各子女
ノ間ニ財産ヲ分配スルニ當然カク當國民性ヲ遺產相續ニ付テモ單獨主義ヲ採
用シタルハ予ノ深矣遺憾トスル所ナリ何者民法ハ其類ニ依リ共同主義及
採用シタル事ノ宜キヲ得テ所ニ入テ別ニ實行イ欲スルニ可ク然レバ

三 相續ノ根基

相續ノ根基ニ關スル觀念ハ其目的ノ如何ニ依リテ自ラ異同ナキニモトシ得ス然
レトモ進歩シタル社會ニ於ケル相續ノ效力ハ主トシテ財産ノ承繼ニ在ルカ故
ニ學者カ相續ノ根基ヲ論スルハ主トシテ其財產ノ承繼ニ關スル方面ニ於テス
ルヲ常トス故ニ予モ亦其類ニ依リテ專ラ此點ヨリ立論セントス然レバ
相續ノ根基ニ關スル歐洲ノ觀念ハ大別シテ之ヲ三主義ト爲ス可トシ得テ其
推定主義ニ親族共有主義三最上權力主義即チ是カ人々ニ其權利ノ存
(一) 意思推定主義 (Voluntatis presumption) 意思推定主義ハ相續ヲ以テ所有權ノ發
ト爲スモノナリテ相續ノ根基ヲ被相續人ノ意思ニ置クモノナリ其說ハ曰ク凡

シ財產ヲ所有スル者ニ自由ニ之ヲ處分スルノ權利アリ此權利其權ヲ以テ生
 前ニ於テ行ヒ得ルニシテ又之ヲ死後ニ向テ用フルニ得ルニシテ相
 續トシ被相続人カ此權利ヲ行使シ其死後ニ於テ相續人ヲシテ其財產ノ享有
 爲ラシムルヲ謂フニ過キス故ニ被相続人カ遺言ヲ以テ明ニ其財產ノ處分
 爲シタルトキハ固ヨリ其意思ニ從ハサルヘカラス其遺言ナキ場合ト雖モ法律
 ハ被相続人ノ愛情又ハ本務等ヨリ其意思ヲ推定シ被相続人カ其財產ノ享有
 爲ラシメント欲シタル者ヲシテ之ヲ承繼セシメサルヘカラスト此主義ハ其淵
 源ヲ羅馬ノ法律觀念ニ發シ近世ニ於テハ經濟學者自由論者等ノ專ラ唱道スル
 所ナリ

意思推定主義ハ相續ヲ以テ被相続人ノ權利ノ實行ト爲スモノナルカ故ニ相續
 人ノ遺留分ニ關スル規定又ハ相續財產ノ種類及ヒ取得原因ニ依リ相續人ヲ異
 ニシテ規定シ如ク被相続人ノ權利ノ實行ト相容レタルニハ此主義ヲ認
 ナル所ナリ

(一) 親族共有主義 (copropriété familiale) 親族共有主義トハ相續ヲ以テ共有權ノ實

行ト爲スモノニシテ相續ノ根基ヲ相續人ノ權利ニ假クモノナリ其言フ所ニ依
 レハ血統ニ因リ聯結セラレタル親族カ生活上ニ共通の運命ヲ有シ權利ニ付テ
 モ又義務ニ付テモ相互ノ間ニ一種連帶共通の關係ヲ存スルモノナリ此關係
 ハ同時ニ財產ニ付テハ共通關係ヲ惹起スルモノニシテ親族間一員カ死亡シタ
 ルトキハ其財產ニ付テ共通ノ關係ヲ有スル他ノ各員ニ一定ノ順序ニ從ヒテ其
 財產ヲ享有スルニ至ルモノトス相續ハ實ニ共通ノ關係ヲ有スル親族カ承繼ノ
 順序ニ從ヒテ死者ノ遺產ヲ享有スルヲ謂フニ過キタルモノトス此主義ハ日耳曼
 ノ法律思想ヨリ發生シ來リタルモノニシテ親族間ニハ一種ノ義務ヲ存スルモ
 ノナリト爲ス學者ノ主張スル所ナリ

親族共有主義ハ相續ヲ以テ相續人ノ權利ノ實行ト爲スモノナルカ故ニ此主義
 ニ依リハ被相続人カ遺言ヲ以テ財產ノ處分ヲ爲シトハ此ニ之ヲ制限セサルハ
 カラス又相續財產ノ種類及ヒ取得原因ニ依リテ相續人ノ異
 ナルヲ得ズ

(三) 最上權力主義 (preéminence de l'époux) 最上權力主義トハ相續ヲ以テ圖法ノ定

ニタル便宜ノ制度ト爲スモノニシテ相續ノ根基ヲ國家ノ權力ニ置クモノナリ
 其主張スル所ニ依レハ凡ソ權利ハ主體ヲ離レテ獨リ存スルコトナシ死亡ハ人
 ト其所有物トノ關係ヲ消滅セシムルモノナルカ故ニ死者ノ遺產ハ無主物ト爲
 リ先占競爭ノ目的物ト爲ルベシ此ノ如キヤ死亡者ナル毎ニ社會ハ紛擾ヲ生シ
 秩序ヲ維持ハ之ヲ期スヘカラス故ニ秩序ヲ維持スル國家ハ其最上ノ
 權力ニ依リテ死者ノ遺產ヲ歸屬ヲ定メ以テ豫メ紛擾ノ須至ヲ避ケタルヘカラ
 ス相續トハ即チ此必要ニ基キ國家カ便宜ノ爲メニ設ケタル制度ナリ此主義ハ
 其萌芽ヲ封建制度ニ有スルモノニシテ後世ニ至リテ自然狀態說國民總意論
 等ヲ唱道シタル學者ニ依リテ支持セシメテ漸重メテ其最上ノ地位ニ至リ
 最上權力主義ハ相續ヲ以テ適當ト爲ス所ニ從フヘキモスト式而シテ此主義ハ人
 ノ意思ハ其生命ト效力トヲ共ニスルコトヲ前提トスルモノナルカ故ニ此主義
 ニ從ヘハ人カ遺言ヲ以テ其財產ヲ處分スルコト共特ニ國家カ之ニ效力ヲ認ム
 ルニ非ザル限ハ總テ之ヲ否定セザルヘカラスナリ然レトモ人カ生産ヲ爲スル獨り自己ヲ爲メ

以上ノ三主義ハ相續ナル制度ノ根基ヲ論スル所ニ於テ其意思ヲ異ニシテ相
 續制度其モノヲ是認スル點ニ於テハ相續ノ一致スルモノナリ然レモ之ニ對テ相續
 制度其モノヲ否認スル說ヲ唱フル者ナキニ非ス時時人ノ關係ヲ論ズルモノ
 否認說ノ第一ハ財產ノ私有ヲ非トシ隨テ死者ノ財產ヲ特定ノ人ニ移轉スル制
 度ヲモ否定セントスルモノナリ然レトモ所有權ヲ認ムル純理ニ於テ正當ノ
 根據ヲ有スルノミナラス各人位ニ社會ハ發達ハ之ヲ條件トスルヲ事實ヲ認
 ル以上ハ其產論ノ不當ナルコトハ多言ヲ要セズシテ明カナリ我々ハ此點
 否認說ノ第二ハ勤勞ヲ爲テタル子孫ヲシテ手ヲ拱シテ父祖ノ富有ナル財產ヲ
 享有セシムルハ人ノ勤勉心ヲ阻害スルモノナリ以テ相續制度ヲ認ズルハ社
 會ノ公益ヲ害スト爲スモノナリ然レトモ此說ハ子孫以勤勉ヲ勵メシトシテ父
 祖ノ勤勉ヲ妨タルモノナルヲ以テ採ルニ足ラズ味ハテハ此點ハ其意ハ之ニ直
 否認說ノ第三ハ財產ノ享有ハ之ヲ享有スル意思ノ存續スル間ニノミ限ルモノ
 ニシテ死亡ニ因リ意思ノ消滅シタル人ニ屬セタリ財產ハ死亡ト共ニ無主物ト
 爲ラタルヘカラスト爲スモノナリ然レトモ人カ生産ヲ爲スル獨り自己ヲ爲メ

本節ニ於テハ家督相續ノ開始スル原因開始ノ時開始ノ場所回復請求權ノ時效及ヒ費用ニ關シテ規定セリ以下之ヲ説明セシ

第一 家督相續開始ノ原因

家督相續ノ開始ニ關シテハ民法ニ於テハ一少團體ヲ成シ以上ハ内ニ於テハ之ヲ統轄スル者ナカルヘカラス外ニ向テハ又其家ヲ代表スル者アルヲ必要トスルカ故ニ家督相續ニハ必ず戸主ナカルヘカラス是ヲ以テ一家ノ戸主タル地位ニ空缺ヲ生シタル時キハ必ず代リテ其地位ニ當ル者ナカルヘカラス家督相續ハ此必要ニ關リテ起ルモノナリ一言ニシテ之ヲ蔽ヘハ家督相續開始ノ原因ハ前戸主カ戸主タル身分ヲ喪失スルコトニ在リ但茲ニ注意スルキハ前戸主カ前戸主タル身分ヲ失フト同時ニ其家カ廢家又ハ絶家ニ歸スル場合ニ於テハ家督相續ノ起ラサルコトハ言フ埃タス何トナセハ家督相續ノ起ラサルヲ要スルノ強ナクハナシ共ニ遺言ノ必要ニ關シテハ民法ニ於テハ遺言ニ依リテ家督相續開始ノ原因ヲ規定スル以上ニ過ヘタル如キ概括的ノ規定ヲ採ラスシテ列舉的ノ條文第九六四條ヲ設ケタルカ故ニ其規定ニ從ヒ其原因ヲ列

舉説明スヘシハ其條ニ依リテハ自ラ其家督相續開始ノ原因ヲ生シタルコトヲ

- (イ) 戸主ノ死亡ハ人格其著ヲ消滅セシムルモノナリ故ニ人格ニ伴フ身分ヲ喪失ハシキルハ勿論ナリ隨テ戸主カ死亡シタルトキハ茲ニ家督相續ヲ開始スル此ニ死亡トハ獨實事實上ノ死亡ノミヲ指スニ非スシテ法律ニ於テ死亡シタルモノト看做ス場合モ亦包含スルモノナリ故ニ戸主カ失踪シ宣告受ケテ法律上死亡ト看做スル場合ニ於テ家督相續ノ起ルハ當然ノ結果ナリ
- (ロ) 戸主ノ隱居トハ戸主ハ隱居ニ因リテ戸主タル身分ヲ脱スルコトヲ得ルハ親族編ノ規定スル所ナリ故ニ戸主ノ隱居ハ家督相續ノ原因ナリ(第七五二條)
- (ハ) 戸主ノ國籍喪失ハ戸籍法ニ依リテ日本ノ國籍ヲ失ヒシトキハ依然トシテ其戸籍ニ居ルコトヲ得ルヲ以テ戸主ニシテ日本ノ國籍ヲ失ヒシトキハ依然トシテ其戸籍ニ居ルコトヲ得ル既ニ戸籍ヨリ排除セラルル者ハ其家ノ戸主タルヲ得ザルヲ以テ日本ノ國籍ヲ失ヒシ戸主ハ之ト同時ニ其身分ヲ喪失フ隨テ戸主カ國籍喪失ハ家督相續開始ノ原因ト爲ラザルヘカラス舊民法ニ於テハ戸主カ國籍ヲ喪失シタルカ爲メニ家督相續ノ開始スルコトヲ認メズ是ハ舊民法ハ戸主カ國

籍ヲ失ヒシトキハ同時ニ其家ハ廢家ト爲リ推定家督相續人タル者ハ前戶主ノ家族ト共ニ別ニ一家ヲ創立ストノ規定ナルヲ以テ其間ニ空缺ト爲リテ戶主ノ地位ナカクシテ以テ大ニ隨テ家督相續ノ問題起ルノ餘地ナシ新民法ハ其規定ヲ變テ戶主カ國籍ヲ失フモ爲メニ其家ノ廢家ト爲ルコトヲ認メスシテ唯國籍ヲ有セザル者ハ戶主ト爲ルコト能ハサルカ故ニ其結果トシテ戶主ナキニ至ルヲ以テ茲ニ家督相續ノ必要起ルナリ

(に) 戶主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其家ヲ去リタルトキハ法律行爲ノ取消ハ其效力ヲ既往ニ遡ラシムルハ我民法ノ認ムル原則ナリト雖モ婚姻及ヒ養子縁組ノ取消ニ付テハ其效力ヲ既往ニ及ホサザルコト民法ノ明定スル所ナリ蓋シ此場合ニ於テモ猶ホ取消ノ效力ヲ既往ニ及ホサシメシカ第三者殊ニ子ノ利益ヲ害スルコト非常ニ大ナルヲ以テナリ而シテ入夫婚姻ニ因リテ戶主ト爲リシ者又ハ養子カ家督相續ヲ爲シ戶主ト爲リシ者ハ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ其家ニ入リタルモノナルカ故ニ或事故ノ爲メニ其婚姻又ハ養子縁組カ取消テラタルトキハ其家ニ在ルコト能ハスシテ自ラ戶主タル身分ヲ失フヘシト

應ニ其取消ハ效力ヲ既往ニ及ホサザルヲ以テ入夫又ハ養子ハ取消ノ日マテハ其家ノ戶主ニシテ取消ノ日ヨリ始メテ戶主タル身分ヲ失フモノナリ故ニ戶主ノ職缺ヲ生スルヲ以テ家督相續開始ノ原因ト爲ルモノナリ

(は) 女戶主ノ入夫婚姻 舊民法ノ規定ニ依リテ入夫婚姻ノ場合ニ於テハ婚姻中其入夫ハ戶主ヲ代表シテ其權ヲ行フト雖モ入夫自身ハ戶主ト爲ルニ非ス故ニ入夫婚姻アルモ家督相續ハ起ラザリシナリ然ルニ新民法ノ第七百三十六條ニ於テ入夫ハ入夫婚姻ニ因リテ其家ノ戶主ト爲ルコトヲ定ムルカ故ニ茲ニ戶主ノ更替起リ隨テ家督相續ノ開始原因ヲ爲スモノナリ但シ茲ニ注意スヘキハ第九百六十四條ヲ一見スレハ入夫婚姻ハ何時ニテモ家督相續開始ノ原因ナルヲ如ク見ユルモ此條ハ普通ノ場合ニ付テ規定ヲ設ケタルモノニシテ第七百三十六條ノ但書ニ依リテ當事者ノ意思ヲ表示シテ入夫ヲ其家ノ戶主ト爲サザシトキハ女戶主ハ依然トシテ其戶主タル身分ヲ保有スルヲ以テ家督相續ノ開始セザルコトハ詳ニ論スルノ要ナシ

(へ) 入夫ノ離婚 養子ハ戶主ト爲リタル後ニ之ヲ離婚スルコトヲ得ザルハ民

法ノ規定スル所ナレトモ入夫ハ戸主ト爲リタル後ニ於テ離婚ヲ爲スコトヲ禁
 ゼタルヲ以テ協議上離婚ヲ爲スコトヲ得ヘク又訴ニ依リテ離婚ヲ爲スコトヲ
 得ルナリ而シテ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者ハ離婚ニ因リテ實家ニ復籍
 スルコトハ又民法ノ規定スル所ナルヲ以テ入夫ニシテ戸主タル者カ離婚シタ
 ルトキハ茲ニ戸主ノ空位ヲ生シテ家督相續ノ必要起ルナリ但シ入夫ニシテ戸
 主ニ非サル者カ離婚シタル場合ニ家督相續ノ起ラザルコトハ女戸主ノ入夫婚
 姻ノ場合ニ付キ述ヘシト同一ナルヲ以テ更ニ論スルノ必要ナシ

第二 相續開始ノ時期 第四條ニ於テ其ノ規定スル所ニ依リテ其ノ戸主
 第九百六十四條ニ家督相續ハ左ノ事由ニ因リテ開始スル期間管シテ前述ノ
 家督相續開始ノ原因ヲ列舉シタルカ故ニ此條文ハ獨リ家督相續開始ノ原因ヲ
 定メタルノミニ非スシテ又其開始スル時期ヲ定メタルモノナリ即チ本條ニ列
 舉シタル事實ノ發生シタル時ニ於テ家督相續ハ開始セラレルモノナリ此開始
 ノ時期ヲ確定スルコトハ相續ニ關スル問題ニ在リテハ重要ノコトニシテ殊ニ
 次ノ如キ點ニ於テ其必要アルモノナリ

一 相續人ノ資格ノ有無ハ相續開始ノ時期ニ於ケル現狀ニ依リテ定ムヘキ相
 ノナルカ故ニ其當時ニ於テ現ニ存在セシヤ否ヤ將タ其當時ニ於テ現ニ被相續
 人ノ家族ナリシヤ否ヤ若クハ其當時ニ於テ優先ノ家督相續人ナカレバ其否ヤ
 等ハ直チニ相續人ト爲リ得ルヤ否ヤハ問題ノ決キタルヘキ基礎ト爲ル

二 家督相續ノ效力ハ相續開始ノ時期ヨリ發生スルモノナリ故ニ其時期ノ何
 時ナリシヤハ相續人カ取得シ又ハ負擔スヘキ權利義務ノ範圍ニ影響スルモノ
 ナリ

三 相續財産ノ分離ナルコトハ相續ノ開始シタル時ヨリ一定ノ期間内ニ請求
 セタルヘカラス故ニ其時期ノ確定ハ期間ヲ計算スル上ニ關係ヲ有スルモノナラズ
 相續開始ノ原因中戸主ノ隱居國籍ノ喪失等凡テ死亡ノ場合ヲ除クノ外ハ法律
 上一定ノ手續アリテ始メテ生スルモノナガレテ以テ其手續ノアリタル時即チ
 相續開始ノ時ナリト云フヲ得ルモ死亡ナル原因ニ付テハ他ノ原因ノ如ク其何
 レノ時ニ在リシカヲ知ルハ容易ナラザルコトアリ若シ戸籍吏カ主管スル公入
 帳簿ニ記載ヒラレタル所ノ死亡ノ日附ヲ以テ死亡ノ時期ヲ確定スル證據力ヲ

規定セラル事件ニ總テ被相續人カ家督相續開始ノ當時ニ有シタル住所ノ地ノ最
 判所カ管轄スヘキモノナリ蓋シ被相續人住所ノ地ハ被相續人ノ身分財產等凡
 ツ相續ニ關係シタル事項ヲ調査スルニ於テ最モ便宜多キ方故ニ此地ヲ以テ相
 續開始ノ地ト定メ官民ノ便宜ヲ計リシモノナリ非訟事件手續法第二條參照
 第四 家督相續ノ回復請求權ニ關スル時効

債權ノ消滅時効ニ關シテハ總則編中其種類ニ從ヒ各時効ノ期間ヲ定ムルモ家
 督相續ノ回復請求權ハ純然タル債權ナリト云フヲ得タルヲ以テ債權ニ關シテ
 總則編中ニ規定スル時効ハ之ヲ家督相續回復ノ請求權ニ適用スルヲ得ス然ル
 ニ不確定ナル法律關係カ永ク繼續スルコトハ社會ニ利益ナリトシテ時効
 過ヲ條件トシテ既ニ成立シタル法律關係ノ確定ヲ認メテ之ニ依テ取引其他社
 會諸般ノ關係ヲシテ錯雜紛糾ヲ免レシムルハ社會ニ必要ナリトセハ家督相續
 ノ如ク月主ナル身分ト同時ニ包括的財產ヲ移轉ヲ生スル法律關係ニ於テハ最
 モ其必要アリモト云フヘテ故ニ第九百六十六條ハ家督相續回復ノ請求權ニ
 關スル一ノ消滅時効ヲ定メテ一定ノ期間經過スレバ家督相續ヲ確定スルモノ

ト定メテ家督而シテ同條ニ規定シタル時効ハ一箇月點ニ於テ總則編ハ消滅時効
 第一ノ點ニ時効ノ起算點ニ關シテ人即總則編ノ規定ニ依レバ消滅時効ノ進
 行ハ權利ヲ行使シ得ル時ヨリ始メルモノナレドモ本條ノ時効ハ家督相續人又
 ハ其法定代理人カ相續權侵害ノ事實ヲ知リタル時ヨリ進行スルモノナリ蓋シ
 相續權ナルモノハ債權ト異ニシテ其權利ヲ行使スルヲ得ル時即相續ノ開始
 スル時期ハ前以テ確知スルコト容易ナラサルヲ以テ相續人ト爲ルベキ人ニテ
 是時下シテ相續ノ開始シタルコトヲ知ラサル場合アリ然ルニ若シ時効ノ起算
 點ヲ權利ヲ行使シ得ル時ニ置カバ相續人ト爲リ得ル者カ其權利ノ行使得ルコト
 ナ知ラサル限ニ權利ハ既ニ消滅スル適合ヲ生スルコト少カラズ其故ニ家督
 相續回復ノ請求權ニ關シテハ故テニ總則編ハ消滅時効ニ關スル規定ト異ニシ
 タルモノ而シテ同條ハ相續權侵害ノ事實ヲ知リタル時ヲ以テ時効ノ起算點ト
 爲スヲ以テ相續人ト爲リ得ル者カ相續ノ開始シタルコトヲ知ラサル者ト爲
 ル者カ時効ノ進行ヲ始メス同條ニ依リ時効ヲ進行セシムルニハ其相續人ト爲

ヲ得ル者ガ他人ガ現ニ家督相續ヲ爲シテ自己ニ相續權ヲ侵害シ其事實ヲ知
 事ヲ以テ其第九百六十六條ニ於テ家督相續人又ハ其法定代理人ガ相續權侵
 害ノ事實ヲ知リ得ル時ヨリ以テ以テ條文ノ文字ニ重利ヲ置クニ未成學者及
 家督相續人ガ相續權侵害ノ事實ヲ知リ得ル以上其法定代理人等之ヲ知ラズ
 ルモ猶ホ時效ハ進行ヲ始スルモノハ如ク大ニト雖モ此ハ如キ解釋ハ文字ニ拘
 泥シテ法律ノ精神ヲ忘レタルモノト云ハザルニテ其力ヲテス時效ガハハ權
 利ヲ行フコトヲ得ル者ガ一定ノ期間之ヲ行ハサルガ故ニ其人ヲシテ權利ヲ失
 ハシムルモノナリ自ラ權利ヲ行フコトヲ得サル者ハ權利ヲ行使セザルニトハ
 當然ニテ少シモ責ムヘキ所ナシ故ニ第九百六十六條ニ權利行使ノ能力ヲ
 未成學者ガ相續權侵害ノ事實ヲ知リ得ルガ故ニ其權利ヲ行使セザル場合ニ於テ直
 ナニ時效ヲ進行セシムルノ意ニ非ズルハ明カナリ故ニ同條ノ規定ハ區別シテ
 解釋スルノ必要アリ即チ家督相續人ガ能力者ナルニテハ其家督相續人ガ相續
 權侵害ノ事實ヲ知リ得ル時ヨリ時效ヲ計算スヘキモノニシテ若シ家督相續人
 ガ無能力者ナルトキハ其法定代理人ガ相續權侵害ノ事實ヲ知リ得ル時又以テ

時效ノ起算點ト爲ササルハカラ假令其間ニ其權利ノ行使ノ時効ヲ消滅スル
 其第二ノ點ハ時效ガ比較的ニ短キ法律ニ債權ノ原則トシテ十年ヲ以テ消滅人
 效ノ期間トスルモ家督相續回復ヲ請求權ハ五年間行ハサルニテ其時効ハ四年
 タ消滅スルモノナリ既ニ述ビタル如ク家督相續ノ如キ身身ト共ニ包括的財產
 ノ移轉ヲ生スルモノニ在リテ其關係ガ永久ノ間不確定ナルトキハ一家内又
 ハ親族間ニ紛争ノ起ル機會ヲ與ワルコト永キノ時効第三若シ權利ノ行使
 不安固ナラシメ其利益ヲ害スルコト尠カラサルヲ以テ法律ハ五年ノ猶豫ヲ與
 ヘ向ホ其權利ヲ行ハサル者ハ其權利ヲ失ハシメテ既ニ存シタル法律關係ヲ
 確定スルハ相當ナリト認メテ其モノナリ此ノ如ク法律ハ一方ニ於テハ時効ノ
 起算點ヲ相續人又ハ其法定代理人ガ相續權侵害ノ事實ヲ知リ得ル時ニ置キ他
 ノ一方ニ於テハ時効ノ期間ヲ五箇年ト定メ各人ノ利益ト社會ノ利益ト相調
 和セシムルコトヲ計リテ及上離去者ト如何ナル場合ニテ時効ヲ起算點ハ相
 續權侵害ノ事實ヲ知リ得ル時在リ得ルキハ折角法律ガ家督相續ノ如ク法律關
 係ハ可成的速ニ確定セシムルヲ以テ社會ノ利益ト爲シテ其起算點ノ名又實ヲ又

被相続人ハ何トナルハ相續人若クハ法定代理人カ久シク相續權侵害ノ事實ヲ
 知ラザリシトキハ家督相續回復ヲ請求權ハ數十年ニ亘ルモ消滅セザル場合生
 スルコトアレハナリ故ニ第九百六十六條ハ更ニ附加シテ相續開始ノ時點チ家
 督相續人又ハ其法定代理人ヲ權利ヲ行使スルヲ得ル時ヨリ二十年至經過ハ
 ルトキハ縱令其人等が權利侵害ノ事實ヲ知ラサルモ仍モ回復請求權ハ時效ニ
 係ルモノトシテ時效ノ規定ヲ設ケタル趣意ヲ讀カシキ爲メ也此レハ相續
 第五 相續財産ニ關スル費用ハ其相續人カ其費用ヲ負擔スルニ依リテ其費用
 相續財産ノ保存消算又ハ配當等ニ關シテハ相當ノ費用ヲ要スルモノ也此
 用ハ相續人カ之ヲ負擔セザルハカシサルカ又ハ相續財産カ負擔トシテ相續財
 産中ヨリ其支拂ヲ爲スヘキモノナリ又相續財産カ其費用ヲ負擔スルハ手
 歸スヘキモノナルカ故ニ此問題ハ見何等ノ實益ナキカ如シ然レトモ後
 詳述スルカ如ク相續ニ對シテハ相續人タル者ハ單純ニ之ヲ承認ヲ爲スルカ或
 相續財産ノ限度ニ於テ被相續人ノ義務ヲ負擔ストルヲ條件ヲ以テ承認ヲ爲ス
 カ又ハ全ク之ヲ拋棄スルカノ三種中其一ヲ擇ヒテ決意ヲ爲スコトヲ得ルモノ

ナリ而シテ其決意ノ如何ニ因リテハ相續財産ニ關スル費用ヲ以テ其財産ノ負
 擔トスルキ否ヤニ付テハ大ニ利害ノ關係ヲ異ニスルモノナリ家督相續人カ單
 純ノ承認ヲ爲シタルトキハ費用ノ負擔ヲ以テ相續財産ニ在リトスルモノ又然ラ
 ストスルモノ相續人ニ於テハ痛痒ノ感ナシ被相續人ノ債權者ト相續人ノ債權者
 トノ間ニハ人トシテ利害ノ問題ヲ起ルコトナリ即チ相續財産分離ヲ請求アリ
 タルトキハ被相續人ノ債權者ハ相續財産ノ上ニ優先權ヲ有スルモノニシテ其
 財産ノ中ヨリ費用ヲ支辨スルコト否トハ直チニ優先權ヲ行使ストル得ル財産ノ
 額ニ影響ヲ及ボスモノナリ故ニ此問題ハ相續財産ノ關係ニ其相續人ノ負
 家督相續人カ相續ヲ拋棄シタル場合ニ於テハ相續ノ拋棄ヲ爲ス時點モ費用ヲ
 ケハ必ス負擔スヘキモノナリ又否キハ相續拋棄者ノ利害ニ關シテハ大ナリ
 隨テ被相續人及ヒ相續拋棄者ノ債權者ノ利害ニモ大ニ關係ス唯家督相續人
 ヲテ拋棄ヲ爲シ得ル者ハ至リテ少數ナルヲ以テ家督相續ニ關マテハ此問題ハ
 利益甚タ少シ此問題ノ實益ハ大ナキハ家督相續人カ限定承認ヲ爲スル場合
 ニ在リ限定承認トハ相續財産ノ有ル限リニ於テ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スルモノ

ナルカ故ニ若シ相續財産ニ關スル費用ヲ以テ其財産ノ負擔ヲ行ハシムルトキハ被相續人ノ債權者及ヒ受遺者ハ費用ヲ支拂ヒタル機關ヲ以テ辨濟ヲ受クモモノナレハ時トシテハ全額ヲ辨濟ヲ受ケルコトヲ得ザルコトナリ之ニ反シテ相續財産ニ關スル費用ハ相續人ノ負擔ナリトセハ被相續人ノ債權者及ヒ受遺者ハ相續財産ノ全部ニ付テ辨濟ヲ受ケルコトヲ得ルニ付テハ故ニ費用負擔ノ何レニ在ルヤハ家督相續人及ヒ被相續人ノ債權者并ニ受遺者ノ利害ニ最モ關係アルモノナリ第九百六十七條ニ依レハ相續財産ニ關スル費用ハ其財産ノ負擔ナリト規定セリ故ニ相續財産ニ關シテ起リタル訴訟ヲ費用其財産ヲ管理スル爲メニ生シタル費用又ハ限定承認ノ場合ニ於テ廣告又ハ競賣等ニ關スル費用等凡ソ相續財産ニ關シテ生シタル費用ハ債務及ヒ遺贈ノ辨濟ニ先チテ相續財産ヨリ支拂ハルヘキモノナリ相續財産ニ關スル費用ハ相續人ノコトヨリ起ルシタル費用ナルカ故ニ其財産ヨリ支拂ハルヘキハ實ニ至當ノコトニシテ債權者又ハ受遺者ハ之ニ向テ抗辯スルキ理由ナキモノナリ何トナレハ債權者又ハ受遺者カ其債務又ハ遺贈ノ辨濟ヲ受ケルニ至リタルハ其費用ハ支出スルモノナリ

爲メナリト云ハ得ルヲ以テ之ヲ一種ノ公益費用ト云フ可ナラズ以テ其リノ舊民法ハ相續財産ニ關スル訴訟ニ要セシ費用ハ法律上ノ期間内ニ係ルモノト裁判所ノ許シタル期間内ニ係ルモノトモ同ク總テ相續財産ノ負擔ナリト規定セリ(舊民法財産取得編第三三〇條此規定ノ精神ハ相續財産ニ關シテ起ル訴訟ニ爲メニ要セタル費用ハ總テ相續財産ノ負擔ト爲ルモノトシテ或外國ノ立法例ニ見ル如シ法律上ノ期間内ニ係ルモノト裁判所ノ許シタル期間内ニ係ルモノトヲ區別スヘキモノニ非サルコトヲ明カニスルニ在ルナルヘシト雖モ此ノ如キ規定ヲ設ケタルトキハ反對論法ニ依リテ相續財産ニ關スル訴訟ニ要シタル費用ニ非サル其他ノ費用ハ相續財産ノ負擔ト爲スヘキモノトカ如キ解釋ヲ爲シ得ルヲ以テ寧ロ新民法ノ如ク廣ク相續財産ニ關スル費用ヲ以テ總テ其財産ニ關スル費用ト爲スハ至極理論ニ適應スルモノト爲スルニ當リ相續財産ニ關スル費用ハ其財産ヨリ支拂ヤラズルモノナレトモ家督相續人ハ過失ニ因リテ生シタルモノハ之ヲ相續財産ノ負擔ト爲スヲ得ス過失ヲ家督相續人ニ於テ負擔セザルヘカラス是レ一種ノ損害賠償ニシテ總テノ費用ヲ一

但相續財產ノ負擔トシ家督相續人ノ過失ニ因リテ生シタル費用ニ限リ更ニ家督相續人ヨリ相續財產ニ向テ賠償スベキモノト爲ス代リニ始メヨリ其費用ヲ以テ家督相續人ノ負擔トナシテ其過失ノ責任セシメタルナリ例ヘキ家督相續人カ管理上ノ注意ヲ缺キシカ爲メニ相續財產ニ毀損ヲ生シテ爲メニ修繕ヲ要シタルカ如キ又ハ相續財產ニ關スル訴訟ニ關シテ欲テ關席シタル爲メニ不利益ナル調席判決ヲ受ケ故障ノ申立ニ因リ始メテ利益ケル判決ヲ得タルカ如キ場合ハ家督相續人ノ過失ニ基因シテ生シタルモノナラザルヲ以テ相續財產ノ負擔ト爲スロトヲ得サルナリ

家督相續人カ或行爲ヲ爲スヘキコトヲ怠リシ爲メニ相續財產ヲ組成スル所ノ或權利ヲ消滅ヲ來シタル場合ニ於テ其怠慢ノ結果ハ家督相續人ニ於テ引受ケタルヘカヲササルハ勿論ナレトモ相續財產ヲ組成スル或權利ノ消滅ハ之ヲ相續財產ニ關スル費用ト云フヲ得タルヲ以テ此場合ニハ第九百六十七條ヲ適用スルコト能ハズ被相續人ノ債權者又ハ受遺者ノ如キ家督相續人ノ怠慢ニ因リ損害ヲ受ケタル者ニテ其救済ヲ求メントモハ不法行爲ニ關スル法律ノ規定ニ

依リ損害賠償ヲ請求スルヲ途ニ出ササルカラス

第九百六十七條第二項ニ依リテ遺留分權利者即チ家督相續人カ贈與ノ被殺ニ因リ得タル財產ハ之ヲ以テ相續財產ニ關スル費用ヲ支辨シ充ツルコトヲ要セ

スル規定ナリ家督相續人カ贈與ノ被殺ヲ請求スルコトヲ得ルハ其遺留分ヲ保全スル爲メナルヲ以テ贈與ノ被殺ニ因リテ得タル財產モ亦相續財產ナルコト

ニ他ノ財產ト異ナルニ由ル故ニ第九百六十七條第一項ノ規定アリテ第二項ノ規定ナカリスレバトモ贈與ノ被殺ニ因リテ得タル財產ト雖モ之ヲ以テ相續財產ニ關スル費用ノ支辨ニ充テタルヘカヲササルノ結果以テ生スヘシ然ル

ニ法律カ家督相續人ヲシテ贈與被殺ノ請求ヲ爲スコトヲ得セシムル所以ノモ

ノハ被相續人ノ財產處分權ニ制限ヲ加ヘテ其家督相續人ヲ保護セシムル爲メナ

リ若シ贈與ノ被殺ニ因リテ得タル財產ト雖モ猶ホ費用ノ支辨ニ充テサルヘカ

ラストモハ贈與ノ被殺ハ家督相續人即チ遺留分權利者利益セシムル被相

續人ノ債權者又ハ受遺者ヲ利益スルニ至リ法律カ家督相續人ニ贈與被殺ノ請

求ヲ許シタル精神ニ反スヘシ殊ニ贈與ヲ受ケタル者ト遺贈ヲ受ケタル者ト間

五在リタル法律ニ準テ贈與ヲ受ケ受取者ヲ保護スルニ重クテ置キタルハ民法全體ノ規定中自ラ推知スルハキコトナリ并テ贈與ヲ減殺シテ却テ遺贈ヲ受ケタル者ヲ利益スルニテ遺贈トシテトモル民律ノ精神ハ殺却キタルモノト云ハサルニカラス是レ第九百六十七條第二項カ第一項ニ對シテ例外ヲ規定シテ遺留分權利者タル家督相續人ヲ保護セタル所以ナリ此規定ハ家督相續人カ相續ノ拋棄ヲ爲セタル場合ニハ適用ヲ見サレナリ何トナレハ相續ノ拋棄シタル者ハ家督相續人ニ非ズルカ故ニ贈與ヲ減殺スルコトナキヲ以テナリ相續ノ單純承認ヲ爲シタル場合ニ於テハ此規定ハ格別ノ實益ナシ何トナレハ單純承認ヲ爲シタル相續人ハ相續財産ノ外自己ノ財産ヲ以テモ被相續人ノ債務遺贈ノ辨濟ヲ爲ササルニカラスナルモノナリ故ニ遺贈ノ減殺ニ因リテ得タル財産ヲ以テ費用ヲ支辨スルコト否トハ何等ノ利害關係ヲ有セザルヲ以テナリ惟僅ニ相續財産分離ノ場合ニ被相續人ノ債權者ト家督相續人ノ債權者ト優先ヲ以テ辨濟ヲ受ケル財産ニ多少ノ影響ヲ及ボスニ此規定ニ必要アルハ本條第一項ト同シ然レ共々相續ノ限定承認ノ場合ニ在リ例ハハ財産ト同額ノ負債ヲ殘シ

タル被相續人カ相續開始前一年內ニ他人ニ千圓ノ贈與ヲ爲セタル場合ニ於テ家督相續人カ限定承認ヲ爲スニ於テハ其家督相續人ハ遺留分トシテ五百圓タケハ必ス受ケヘキモノナルカ故ニ千圓ノ贈與ヲ受ケタル者ニ對シテ五百圓ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得而シテ相續財産ニ關スル費用ハ相續財産カ支辨スヘキモノニシテ家督相續人カ贈與ヲ減殺シテ得タル五百圓ヲ以テ之ニ充ツルニトヲ要セザルカ故ニ被相續人ノ債權者タルモノハ其費用カ相續財産カ減殺タルカ爲メ債務ノ完済ヲ受ケサルニ關シテ家督相續人ハ其五百圓ヲ全ク自己ノ所有ト爲スコトヲ得ルナリ

第二節 家督相續人

此節ニ於テハ胎兒ノ家督相續ニ關スル權利家督相續人ト爲ルモノヲ得ザル者法律上ニ於テ推定家督相續人ト爲ル者法定家督相續人ノ廢除并ニ廢除ノ取消家督相續人ノ指定并ニ指定ノ取消家督相續人ノ選定直系尊屬ノ相續權等ニ付キ規定スレトモ之ヲ大體ニ區別スルハ家督相續人ノ資格及ニ其順位ニ付テ規定

レタルモノト云フコトヲ得ルカ故ニ資格ト順位トニ分チ説明スヘシトモ、
 第一 家督相續人ノ資格 家督相續人ト爲ルニハ四個ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス即チ相續開始ノ時ニ
 於テ存在スルコト法律上ノ資格ナキコト裁判上ノ失權者ニ非サルコト日本ノ
 國籍ヲ有スル者ナルコト是ナリ以下之ヲ説明スヘシ
 (5) 相續開始ノ時ニ於テ存在スル者ナルコトヲ要ス
 權利義務ハ人ヲ離レテ存在スルコト能ハサルモノナルカ故ニ相續ニ因リテ權利
 義務ノ移轉アリトスレハ之ヲ取得スル主體ナルヘカラス家督相續人ハ家督
 相續ニ依テ權利義務ヲ承繼スル者ナルカ故ニ其第一ノ要件ハ其人カ相續開始
 ノ當時ニ於テ存在スルコトヲ要スルヲ待タス而シテ人カ存在ハ出生ニ始
 リ死亡ニ終ルモノナルカ故ニ其結果トシテ次ニ述ワル如キ者ハ家督相續人ト
 爲ルコトヲ得サルモノナリ
 一 相續開始ノ時ニ於テ未タ生レサル者 胎内ニ在ルモノハ出生ニ至ルニ至リテ
 二 相續開始ノ時ニ於テ既ニ死亡シタル者 子相續、部相續、孫相續ハ出生ニ至ルニ至リテ

第一ノ者カ相續權ヲ有セザルコトニ付テハ少シク説明セサルヘカラス嚴格ニ
 言ヘハ出生ノ事實ナルカ故ニ苟モ母ノ胎内ヲ離レサル以上ハ之ヲ出生ト云フ
 コト能ハスト雖モ第九百六十八條ハ家督相續ニ付テハ胎兒ヲ以テ既ニ生レタ
 ル者ト看做スカ故ニ既ニ懷胎セラレタル子ハ事實出生モザルモ法律上假定ニ
 因リテ家督相續ニ付テハ出生シタルト同一視セララルナリ胎兒カ其利益ト爲
 ル場合ニ於テ既ニ生レタルモノト看做スハ羅馬法以來ノ格言ニシテ羅馬法系
 諸國ノ立法例ハ多ク此格言ヲ認メテ民法中ニ規定セリ我舊民法モ明カニ此原
 則ヲ掲ケタリ舊民法人事編第二條新民法ニ於テハ此ノ如キ廣汎ナル規定ナシ
 ト雖モ此原則ノ適用最モ必要ナル相續及ヒ遺言ニ關シテハ明文ヲ以テ胎兒ヲ既
 ニ生レタルモノト看做セリ故ニ相續開始ノ當時ニ於テ既ニ母ノ胎内ニ在ルモノ
 ハ事實上出生ナクトモ法律上假定ニ因リテ家督相續人タル權利ヲ有スルモノ
 ナリ
 法律ハ家督相續ニ付テ胎兒ヲ以テ既生兒ト看做スト雖モ是レ既ニ懷胎セラ
 ルニ於テハ出生ニ因リ人格ヲ得ルニ至ルヘキニ應入推定アルカ故ニ其者ノ權

利ヲ保護シタルニ過キス若シ事實カ法律ノ豫期ニ反シ胎兒カ死體ニ生レタ
 ルトキニ猶ホ之ニ相續權アリトスルトキハ法律ノ保護ハ其度ニ過キ却テ他人
 ノ利益ヲ害スルニ至ルカ故ニ第九百六十八條第二項ハ胎兒カ生キテ生ルルニ
 非テレハ第一項ヲ適用セスト規定セリ
 外國ノ立法例ニ於テハ胎兒ヲ以テ既生兒ト看做スニハ生存シテ生ルルコトヲ
 必要トスル外ニ尙ホ引續キ生存シ得ルノ力ヲ備フルコトヲ必要トスルモノ多シ
 下雖モ我民法ハ單ニ死體ニテ生レタルトキヲ除外スルノミカ所カ故ニ尙モ死
 體ニテ生レタル限リハ如何ニ其身體ノ狀態ハ不完全ナルモ相續人ノ資格ヲ
 得ルニ於テハ缺點ナキモノト謂ハサルヘカラス蓋シテ胎兒カ生レタルニテ
 (乙) 法律上ノ缺點ナキコトヲ要スルニ關シテハ法律ノ規定ニ依リテ
 法律ハ或行爲ヲ爲シタル者ニ對シテ其制裁トシテ之ニ家督相續人ヲ爲スルコト
 ヲ許サスト爲セリ故ニ家督相續人ト爲ルハ法律ニ定メタル缺點事由ナキ
 コトヲ要ス而シテ法律規定ノ缺點事由ハ左ノ如シ第九百六十九條ニ出テ
 一故意ニ被相續人又ハ家督相續ニ付キ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死

致サントシタル爲メ刑ニ處セザレタル者ニ對シテハ家督相續人ト爲ルコト
 此事由ニ因リテ家督相續人タル資格ヲ失フニハ左ノ三要件ヲ必要トスル
 (甲) 被相續人又ハ家督相續ニ付テ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サシ
 トシタルコトニ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル者トハ自己カ斯ル行爲ヲ
 爲シタル場合ヲ云フ故ニ被相續人又ハ家督相續ニ付テ先順位ニ在ル者ヲ死
 ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル犯罪ヲ幫助シテ之ヲ容易カラセタル者ハ
 失權ノ結果ヲ生セス然レドモ他人ヲ教唆シテ此等ノ犯罪ヲ爲サシメタル者
 ハ法律ニ之ヲ正犯ト爲ヌカ故ニ自ラ手ヲ下シタルモノト同一ニ看做シテ家
 督相續人タル資格ヲ得ず不問ハサルヘカラス蓋シテ胎兒カ死體ニ生レタル
 被相續人又ハ家督相續ニ付テ先順位ニ在ル者ヲ死刑ニ處セラルベキ犯罪ア
 リト原告シタル者ハ之ヲ死ニ致サントシタル者ト云ヒ得ズ年々裁判所ノ事
 實ノ真相ヲ審查シテ判決ヲ與フルモノナルカ故ニ死刑ニ處セラルベキ犯罪ア
 リト原告シタルノモニテ之ヲ以テ死ニ致サシメタルモノト云フコト能
 ハス隨テ此ノ如キ原告ヲ爲シタル者ト雖モ當然家督相續人タル資格ヲ失フ

モ、非ス、故ニ過失ニ因リテ被相續人又ハ家督相續ニ付キ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致セタル者ハ家督相續權ヲ失ハス然レバ他人ヲ殺サントシテ、誤リテ被相續人又ハ先順位者ヲ殺セタルトキハ如何刑法第二百九十八條ニ依リ此ノ如キ場合ハ過失罪ニ非スト爲シタルハ明カナリ然レトモ第九百六十九條ニ所謂被相續人又ハ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致ストハ單ニ人ヲ死ニ致スノ意思アルヲ以テ足レテ爲シタルニ非スヤテ必ス而テ被相續人又ハ先順位者ヲ殺スノ意思アルコトヲ要ス故ニ此場合ハ第九百六十九條ヲ適用スルコト能ハス又被相續人ヲ毆打シ因テ之ヲ死ニ致セタル者モ亦第九百六十九條ノ範圍外ナリ何トナレバ此ノ如キ者ハ被相續人ヲ死ニ致スノ故意アル者ニ非ナレハナリ

(丙) 刑ニ處セラレタルコトニ被相續人又ハ家督相續ニ付キ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致セ又ハ死ニ致セザル爲シタルモ刑ニ處セラレタルニ非ナレバ家督相續人タルコトヲ妨グス故ニ此ノ如キ非行ヲ爲シタル者カ刑法ノ不諭罪ノ場合

ニ該當スルトキ公訴ノ時効ニ罹リタルトキ又ハ處刑前ニ死ビシ若クハ大赦ニ達シタルトキハ依然トシテ家督相續人タルコトヲ得ヘシ然レトモ苟モ刑ニ處セラレタル以上ハ必ス刑ニ服スルコトヲ要セス故ニ刑ノ時効ニ罹リ又ハ特赦アルモノ之ニ依テ相續權ヲ回復スルモノニ非ス

二 被相續人ノ殺害セラレタルコトヲ知リテ之ヲ告發又ハ告訴セザリシ者被相續人カ殺レタルコトヲ知リテ告發又ハ告訴ヲ爲サザル者ノ如キハ被相續人ヲ殺シタル者ノ如ク自己ノ欲望ヲ達センカ爲メニ非行ヲ爲シタルニ非ナレトモ相續人トシテ被相續人ノ殺レタルコトヲ知リテツツ冷然他人視スルカ如キ者ハ縱令心術ニ其殺害ノ事實ヨリ自己ノ相續權ノ實行速ニ爲リタルコトヲ喜ブモノニ非サルモ少クトモ其殺害ナル行爲ヲ認容シタルモノト謂ハサルベカラス此ノ如キ者ヲシテ其被相續人ノ家督ヲ相續セシムルコトハ人ノ道義心ニ於テ許サザル所ナルカ故ニ法律上之ニ相續權ヲ與ヘズナリ

告發告訴ヲ爲スニ遲滞ナク之ヲ爲サザルベカラス然レトモ法律ニ於テハ別ニ期限ヲ定メサルカ故ニ相續人ト爲ルベキ者カ告發又ハ告訴ヲ爲サザリシ

ヤ百ノハニニ相當ノ期間内ニ爲シタルヤ否キニ因リ定メテ其事項カ裁判所ニ知レルエテニ告發告訴ヲ爲セタルカ否キトモニ非ス面シテ相當ノ期間ニ告發又ハ告訴ノ有無ニ付キ争ハズトモニ裁判官ノ認定ニ依リ決スヘキハ勿論ナリ

第九百六十九條第二號ニ依リテ家督相續人ト爲ル資格ナキニ至ルハ左ニ述フル場合ニ限ルモノナリ

(イ)殺レタル者カ被相續人ナルトキ 故ニ家督相續ニ付キ先順位ニ在ル者カ殺レタル場合ニ之ヲ告發告訴セサルモ相續權ヲ失フモノニ非ス

(ロ)相續人タルヘキ者カ殺害事項ヲ知り居ルコト 事實ヲ知ラサル者ハ告發告訴ヲ爲シ能ハサルカ故ニ失權ノ起ルヘキ道理ナシ

(ハ)殺害ナル事實ヲ告發又ハ告訴セサルトキ 故ニ家督相續人タル資格ヲ失ハタル爲メニハ唯被相續人ノ殺レタルコトヲ申立ツレハ可ナリ必ズシモ其殺レタル者ノ何人ナルヤヲ指ササルモノ可ナリ

被相續人カ殺レタルコトヲ知りナカラ告發告訴ヲ爲ササルカ如キ者ニ相

續權ヲ有セシメサルハ殺害ノ行爲ヲ認容シタルカ如キ者ヲ被相續人ノ相續人ト爲スハ道義ノ許ササル所ナリト云フニ在リ隨テ殺害行爲ヲ認容シタルニ非サルモ他ノ事情ノ爲メニ告發告訴ヲ爲ササル者ノ如キハ相續權ヲ有セシメテ可ナルハ論ナシ故ニ被相續人カ殺レタルコトヲ知ルモ次ニ述フル場合ニ該當スル者ハ告發告訴ヲ爲ササルモ家督相續人タルコトヲ妨ケス

(イ)是非ノ辨別ナキトキ 幼者又ハ心神ヲ喪失シタル者ノ如キ是非ヲ辨別シ能ハサル者ハ被相續人ノ殺害サレタルコトヲ知り告發告訴ヲ爲ササルモ之ヲ以テ殺害行爲ヲ認容シタリト云フ能ハス故ニ此ノ如キ場合ニハ相續權ノ喪失ヲ生セス但シ法律ニ於テハ是非ノ辨別ナキトキニ關シテノミ例外ヲ設ケタルカ故ニ未成年者ト雖モ是非ヲ辨別スル力ヲ有スル者ハ告發又ハ告訴ヲ爲スノ責ヲ免レヌ又心神ヲ喪失シタル者カ心神ヲ回復シタルトキニ於テ被相續人ノ殺サレタルコトヲ知りナカラ告發又ハ告訴ヲ爲ササルモ相續權ヲ失フ

(ロ)殺害者カ自己ノ配偶者ナルカ若クハ直系血族ナルトキ 殺害者カ自己ノ

配偶者ナルカ又ハ直系血族ナルトキハ殺害ナルコトヲ知ル者カ告發又ハ告
 訴ヲ爲サナリシハ其行爲ヲ認メテ善キ事ヲ爲シタリト云フニ出テタルニ非
 スレテ全ク告發告訴ヲ爲サハ自己最愛ナル者カ忽チ刑辟ニ觸ルルヲ以テ之
 ヲ避ケシメントスルハ人ノ至情ナリ故ニ殺害者カ自己ノ配偶者又ハ直系血
 族ナルトキハ之ニ告發又ハ告訴セサルモ相續權ヲ失ハス但シ實際ニ於テハ
 和親權ノ有無ニ付キ爭アリタル場合ニ殺害ノ事實ヲ告發告訴セナリシ者カ
 加害者カ自己ノ親族ナルヲ理由トシテ自己ニ相續權アルコトヲ主張セザレ
 ばハ忽チ其最愛ノ者ヲシテ刑事ノ被告人ト爲スノ虞アルカ故ニ此例外ノ適
 用セラルル場合ハ甚タ尠カルヘシ即チ加害者ノ何人タルコトハ既ニ判明ナ
 ルトキ又ハ犯罪カ公訴ノ時效ニ罹リタルトキノ外ニハ殆ト其適用ヲ見サル
 ヘシ

三、詐欺又ハ強迫ニ因リ被相續人カ相續ニ關スル遺言ヲ爲シ之ヲ取消シ又
 ハ之ヲ變更スルコトヲ妨ケタル者
 被相續人ヲ欺クカ又ハ之ヲ強迫シテ其遺言ヲ爲スヲ妨ケテ之ヲ爲サザルカ

又ハ既ニ爲シタル遺言ヲ取消又ハ變更セシメントスル者ハ多ク之ニ因リ
 自己ノ欲望ヲ達セントスルモノナリ故ニ法律ハ此ノ如キ者ヲ家督相續ヨリ
 排斥シテ其制裁ト爲シタルナリ第九百六十九條第三號ハ詐欺又ハ強迫ニ因
 リテ遺言ヲ妨害セタル場合ノ規定ナルカ故ニ其妨害ハ惡意ニ出テタルヘカ
 ラス故ニ不注意ニ因リ事實ヲ誤リ被相續人ニ告ケタルカ爲メ被相續人カ違
 言ヲ中止セ又ハ取消若クハ變更ヲ止メタルカ如キハ不注意者ハ家督相續人
 ト爲ルニ何等ノ妨ケナキモノナリ又同號ハ相續ニ關スル遺言トアルカ故ニ
 其妨ケタル遺言ハ相續ニ關シタルモノナラサルヘカラス推定家督相續人ノ
 廢除若クハ廢除ノ取消又ハ家督相續人ノ指定若クハ指定ノ取消ノ如キニ關
 シタル遺言ハ相續ニ關スルモノタルコトハ何等ノ疑ヲ容レザル所ナルモ遺
 言ヲ以テ養子ヲ爲シタル場合ノ如キハ之ヲ相續ニ關スル遺言ト云フコトヲ
 得ヘキカ養子ニ關スル遺言ノ場合ハ之ヲ二ツニ區別セサルヘカラス即チ家
 督相續人ト爲スヘキ養子ヲ爲ス遺言ハ相續ニ關スル遺言ナレトモ家督相續
 人ト爲サザル養子ヲ爲ス遺言ハ相續ニ關シタルモノト云フコトヲ得ザルヲ

以テ此場合ノ妨害者ハ家督相續人タルヲ妨ケス又遺贈ハ相續編中ニ規定スルモ受遺者ハ決シテ相續人ニ非サルコトハ前ニ述ベタル所ナリ果シテ然ラハ遺贈ヲ爲ス遺言ヲ妨害シタル者ハ家督相續人ト爲ルニ何等ノ妨ケモキキ法律ニ於テ遺言ノ妨害者ヲシテ相續人タル資格ヲ有セシメタル必要アリトモハ遺贈ニ關スル遺言ノ妨害者ノ如キハ最モ先キニ之ヲ排斥セサルヘカラス然ルニ遺贈ニ關スル遺言ヲ妨害スルモ猶ホ家督相續人ト爲ルニ妨ケナキモノトモハ第九百六十九條第三號以下ノ規定ハ其必要ノ大半ヲ失フモノト云ハサルヲ得サルカ故ニ予ハ第九百六十九條第三號以下ニ規定セル相續ニ關スル遺言トアルハ相續人及ビ相續財産ニ關スル遺言ノ意味ニシテ遺贈ヲ爲ス遺言ノ如キ相續財産ニ大ナル影響ヲ及ボスヘキ遺言ハ總テ之ヲ包含スルモノト解釋スルヲ至當ナリト信ス

四 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相續人ヲシテ相續ニ關スル遺言ヲ爲サシメ之ヲ取消サシメ又ハ之ヲ變更セシメタル者

此事由ハ前述ノ事由ト表裏ヲ爲スモノニシテ相續ノ資格ヲ失ス原因トナリ

前ニ述ベタル事由ヲ認メタ後以上ハ又此事由ヲ認ムヘキハ當然ナリト謂ハルヲ以テカラス

五 遺言ニ關スル被相續人ノ遺言書ヲ偽造變造毀滅又ハ藏匿シタル者

第九百六十九條第三號第四號ニ規定スル事由ハ被相續人カ未タ死亡セザル以前ニ生スル事由ニシテ此事由ハ其者カ死亡シタル後ニ生スルモノナリ然レトモ其遺言ノ效力ヲ妨クルノ點ハ同一ナルヲ以テ法律ハ同シク相續權ヲ失フ場合ノ一トセリ而シテ偽造變造毀滅藏匿共ニ悉ク故意ニ出ヅルノ所爲トナルヲ以テ過失ニ因リ遺言書ヲ紛失セタル如キ惡意ナキ場合ハ此事由ニ當ラザルハ尙ホ前ノ二號ニ於テ惡意ナキ者ヲ合マサルト同一ナリ

此等ノ事由ハ多クハ其行爲者カ相續ニ關スル欲望ヲ達セントスルコトニ基因シテ生スルモノナリ然ルニ斯ル非行者ヲ以テ其目的ヲ達セシムルコトト爲ルカ故ニスコトヲ得ルモノトモハ非行者ヲ以テ其目的ヲ達セシムルコトト爲ルカ故ニ道義心ニ乏キ者ハ時トシテ相續權ハ實行ヲ早クスル爲メ又ハ相續ノ利益ヲ多クスル爲メニ右ノ如キ非行者ヲ取テスル者ナキニ非ス故ニ法律ハ此ノ如キ

非行ヲ爲シタル者ヲ家督相續ヨリ排斥シテ不正ノ欲望ハ到底達スルコト能ハ
 ストシテ犯罪ノ發生スル源ヲ防キタルナリ然レトモ元來第九百六十九條ノ規
 定ハ人ノ失權ニ關スル規定ナルカ故ニ解釋法ノ原則ニ依リテ嚴重ニ之ヲ解釋
 セサルヘカラス隨テ尙モ同條ノ規定ニ該當セサル以上ニ縱令其惡ムルキコト
 同條ノ規定スル所ノ者ニ優ル者ト雖モ家督相續人タル資格ヲ缺クヘキモノト
 非ス但シ場合ニ依リ裁判上失權ノ結果ヲ受クルコトアルハ無論ナリ
 以上述ヘタル五個ノ事由ハ法律カ規定シテ以テ家督相續人ノ資格ヲ失フ事由
 ナラトモルヲ以テ尙モ其事由ノ一ニシテ存スル以上ハ當然家督相續人ト爲ル
 コトヲ得サルモノニシテ特ニ裁判所ニ請求シテ排斥ノ決定ヲ受ケサルヘカ
 ラサルモノニ非ス又右ノ如キ事由アル者ヲテ相續權ヲ有セシメサルハ公益上
 ノ必要ヨリシテ法律カ明カニ之ヲ排斥シタルカ故ニ被相續人ノ意思力以テ之
 ニ相續權ヲ有セシムルコト能ハス隨テ被相續人ハ宥恕ヲ爲シテ復權セシムル
 コト能ハサルノミナラス推定家督相續人ナキ場合ニ於テ此等ノ者ヲ其家督相
 續人ニ指定スルモ其指定ハ效力ナキモノナリ

(は) 裁判上ノ失權者ナラサルコトヲ要ス

裁判上ノ失權トハ裁判ニ因テ推定家督相續人ヲ廢除シテ其相續權ヲ失ハシム
 ルヲ云フ今裁判上ノ失權ト法律上ノ缺格トノ異ナル點ヲ概舉セハ左ノ如ク
 一、法律上ノ缺格トハ法律ノ規定ニ因リテ家督相續人ト爲ルコトヲ得サルモノ
 ニシテ裁判上ノ失權トハ裁判ノ力ニ因リテ家督相續人タル權利ヲ奪フモノ
 ナリ
 二、法律上ノ缺格ハ何人ノ請求ヲモ待タズ法律ノ規定ニ由リテ當然生スルモ
 ノナレトモ裁判上ノ失權ハ被相續人ノ請求ニ因リテ裁判ノ效力トシテ始メ
 テ生スルモノナリ
 三、法律上ノ缺格ハ一般ノ人ニ對スルモノニシテ何人ニテモ既ニ法律上ノ缺
 格アル者ハ家督相續人タルコトヲ得ズ之ニ反シテ裁判上ノ失權ハ推定家督
 相續人タル者ニ付テノミ云フ事柄ニシテ推定家督相續人ナラサル者ニ付テ
 ハ廢除ナルモノナシ
 四、法律上ノ缺格ハ常ニ非行ヲ爲シタル者ノ制裁ナレドモ裁判上ノ失權ハ必

一 家督相續人ニ對シテ廢除ノ事由ヲ左ノ五種ト爲セリ第九七五條
 一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト
 二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘズルコト
 三 家名ニ汚辱ヲ及ボスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト
 四 浪費者トシテ專横治産ノ宣告ヲ受テ改悛ノ望ミナキコト
 五 正當ノ理由アリコト
 是ナリ以下右各原因ニ付キ少シク細說スル所アラントス

一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト
 被相續人ヲ虐待シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルカ如キ者ニ其家督ヲ相續
 セシムルハ被相續人ノ感情ニ於テ許ササル所ナリ蓋シ相續ハ自己ノ人格ヲ繼
 續セシムルモノナルニ付キ自己ニ對シテ惡意ヲ有スルカ如キ者ニ自己ノ人格ヲ
 繼續セシムルハ人情ノ好マサル所ナルヲ以テナリ故ニ此ノ如キ者ニ對シテハ
 被相續人ハ家督相續人ノ廢除ヲ爲シテ其相續權ヲ失ハシムルヲ得第九百
 七十五條第一號ニハ「虐待ヲ爲シ」トアルヲ以テ推定家督相續人カ唯孝養ヲ盡サ
 サルノミニテハ直チニ廢除ノ理由ト爲スヲ得ニ必ズ被相續人カ若痛ニ堪ヘズ
 ルカ如キ事情ナカルヘカラス又重大ナル侮辱トアルカ故ニ侮辱ヲ加ヘタルヲ
 理由トシテ廢除ヲ請求スルニハ其侮辱ノ重大ナルコトヲ要ス即チ被相續人ヲ
 誣告シタルカ如キ又ハ公衆ノ面前ニ於テ其名譽ヲ損スル言辭ヲ發シタルカ
 如キハ重大ノ侮辱ト云フヲ得ニ唯被相續人ニ對シテ輕蔑ノ言辭ヲ發シタル
 カ如キハ未タ以テ重大ナル侮辱ナリト云フヲ得サルヘシ但シ推定家督相續人
 行爲カ虐待ナリヤ又ハ重大ナル侮辱ナルヤ否ヤハ事實ノ問題ナルヲ以テ結

局茲判官ノ判定ニ一任セサルヘカラス
 二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ハサルハ其ノ身主ト爲
 家督相續ハ戶主ナル身分ノ承繼ナルカ故ニ家督相續人ト相續ニ因リ戶主ト爲
 ルモノナリ戶主ハ一家ノ長トシテ其家政ヲ處置スルノ任務アルヲ以テ身體又
 ハ精神ノ狀況カ家政ヲ執ルニ堪ハサル者ナレハ戶主タルニ適當ナリ
 三 戶主タルニ適當セサル者カ家督相續ニ於テ失權者タルコトハ家族制度ヲ認
 メタル當然ノ結果ナリ是レ即チ法律ニ於テ被相續人ヲシテ疾病者瘋癲者白痴
 者盲者聾者啞者ノ如キ身體又ハ精神ニ異狀アリテ到底一家ノ長トシテ任務ヲ盡
 スノ能力ナキ推定家督相續人ヲ廢除シテ相當ノ能力アル者ニ家督相續ヲ爲サ
 シムルコトヲ許セタル所以ナリ唯茲ニ注意スヘキハ身體又ハ精神ニ異狀アル
 者ヲ排斥スルハ其家政ヲ執ルニ堪ハサルニ因ルカ故ニ廢除請求ノ相當ナリヤ
 否ヤハ一ニ其家督相續人カ家政ヲ執ルニ堪ハサルニ由リ決セサルヘカ
 ラス隨テ疾病ヲ理由トシテ推定家督相續人ヲ廢除センハ被相續人ハ其
 疾病ハ平癒ノ望ナク且ツ身體衰弱シテ到底戶主タル任務ニ堪ハサルコトヲ證

明セサルヘカラス
 三 家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト

此事由ニ因リ推定家督相續人ヲ廢除センニハ左ノ二箇ノ條件ヲ必要トス
 (一) 家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ノアリタルコト 或犯罪カ家名ニ汚辱ヲ及ホ
 スヤ否ヤハ之ニ對スル刑ノ輕重ニ依リ判斷スルコト能ハス其罪質ノ如何ニ
 依リ判定セサルヘカラス例ヘハ姦所ニ於テ姦夫ヲ殺シタル犯罪ハ懲役又ハ
 禁錮ヲ以テ罰スヘキモ人ハ之ヲ以テ家名ニ汚辱ヲ及ホス犯罪ト爲サス之ニ
 反シテ密賣淫又ハ之カ媒合ヲ爲シタルカ如キハ其刑僅ニ拘留科料ニ止マレ
 トモ何人モ其家名ヲ汚辱シタルモノト云フニ異論ナカルヘシ
 (二) 刑ニ處セラレタルコト 推定家督相續人カ家名ニ汚辱ヲ及ホスハ其罪ヲ
 ルモ刑ニ處セラレサル以上ハ之ヲ廢除スルコト能ハス
 四 浪費者トシテ華禁治産ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト
 浪費者トハ前條ノ考モノナク消費スル者ニシテ此ノ如キ者ニ家政ヲ一任セハ家
 計ハ忽チ整理ヲ失ヒ一家忽チニ非運ニ陥ルニ至ルヘシ故ニ推定家督相續人カ

浪費者ナルトキハ被相續人ハ之ヲ家督相續ヨリ追ケテ家前途ヲ喪失ヲ許ルコトヲ得而シテ推定家督相續人ヲ浪費者ナリトシテ廢除スルニハ左ノ二箇ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

- (一) 推定家督相續人カ準禁治産ト宣告ヲ受ケタルコトニ家督相續人ヲ廢除スルハ實ニ重大ノ事柄ナルヲ以テ容易ニ許スヘカラス故ニ浪費ノ理由ヲ以テ廢除ヲ爲スニハ其者ハ既ニ準禁治産ト宣告ヲ受ケ裁判上浪費者タルコトヲ公認サレタルコトヲ要ス
 - (二) 改悛ノ望ナキコト 推定家督相續人カ浪費者トシテ準禁治産ト宣告ヲ受ケタルトキハ何時ニテモ廢除ヲ爲シ得ルモノニ非ス法律ハ尙ホ將來ニ改悛ノ望ナキコトヲ以テ廢除ノ要件ト爲セリ故ニ將來改悛ノ望アル者ナラバ之ヲ廢除スルヲ得ス而シテ改悛ノ望アルヤ否キハ事實ノ問題ナレハ既往現在ニ鑑ミ將來ヲ推測シテ判斷スルモノナラズ
- 五 正當ナル事由アルコトニ因リテ廢除スルニ正當ナル事由ニ非ナルモノ以上ニ列舉シタル事由ハ家督相續人ヲ廢除スルニ正當ナル事由ニ非ナルモノ

ナシト雖モ之ノ時上シ或戸主ト爲ルニ不適當ナル人物ヲ家督相續ト爲シタル場合ニ生ゼサルヲ担保モス故ニ第九百七十五條ハ右列舉シタル事由ノ外ニ尙ホ推定家督相續人ヲ廢除スルコトヲ正當ノ事由ト爲スヘキモノアル場合ニ於テハ被相續人列シテ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求シ得ト規定セリ而シテ如何ナル事由カ推定家督相續人ヲ廢除スルニ正當ナリト謂フヲ得ヘキヤ第九百七十五條第一項ニ於テ各場合列シテ列舉シタル精神ヨリ推セバ第二項ニ規定シタル所ノ正當ナル事由モ亦第一項ニ規定シタル所ノ類似ノモノナラザルヘカラザルカ如キモ民法修正案參考書ヲ見ルニ第二項ノ意義ハ此入如ク狹隘ナルモノニ非ズルカ如シ若シ參考書ニ記スル所ヲ以テ立法者ノ意ヲ得タガモノナリトモ推定家督相續人ヲ廢除スルニ付テ正當トスルノ理由ハ二箇ノ場合ニ分テテ觀察スルヲ得ベシ即チ其一ハ被相續人ノ利益上其廢除ヲ必要トスル場合ニシテ他ノ一ハ相續人ノ利益上其廢除ヲ必要トスル場合ナリ例ヘテ推定家督相續人カ多額ノ負債ヲ負ルコトキ又ハ各繼承遺領ノ所カ如キコトヲ爲シタル場合ニハ此ノ如キ者ヲシテ家督相續ヲ爲サシムルニ於テ或

ハ一家ヲ破産ノ悲境ニ陥ラシムルノ虞アリ又或ハ家名ヲ潰シ延テ家族全體ノ面目ヲモ損スルニ至ルヲ以テ此ノ如キ場合ニハ一家ノ利益上推定家督相續人ヲ廢除スルニ付キ正當ノ事由アルモノト云ハテ得テ之ヲ得テ之ヘハ又修正案參考書ニモ示ナルカ如ク例ヘハ貧家ノ推定家督相續人共シテ學費ノ供給ヲ得ル能ハサル者カ若シ他人ノ養子ト爲リタランニハ相當ノ教育ヲ受クルコトヲ得ヘシト云フカ如キ場合ニハ推定家督相續人タル資格ヲ廢除スルニ非ズレハ養子ト爲ルコトヲ得タルカ故ニ此ノ如キ場合ニ其相續人ノ利益ノ爲メ廢除スルカ如キハ正當ノ事由ナルヘシト云フ事由ナキニ非ズ

(乙) 家督相續人廢除ノ請求ヲ推定家督相續人ノ廢除ハ前述シタル如ク或事實ノ存スレハ當然生ズルモノニ非ズ必ズ之ヲ請求ヲ待テテ始メテ生ズルモノナリ廢除ノ請求ニ關シテハ次ノ三問題ヲ決定セハ自然明瞭ナルヘシ即チ廢除ノ請求ハ何處ニ向テ之ヲ爲スヘキヤ廢除ノ請求ヲ爲スヲ得ルハ何人ナルヤ及ヒ何人ニ對シテ之ヲ請求スヘキヤ是ナリ

第一 廢除ノ請求ハ何處ニ向テ之ヲ爲スヘキヤ 第九百七十五條及ヒ人事訴訟手

續法第三十三條ニ依レム推定家督相續人廢除ノ請求ハ被相續人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ於テ普通裁判籍ヲ有セザル地方裁判所ニ向テ爲シモフナリ而シテ其請求ハ必ズ訴ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ササルヘカラヌ人事訴訟手續法第三十三條並ニ非訟事件手續法第六十六條ニ訴ナル文字アルヲ以テ明カナリ

第二 廢除ノ請求ハ何處ニ向テ之ヲ爲スヘキヤ 第九百七十五條及ヒ人事訴訟手續法第三十三條ニ依レム推定家督相續人ノ廢除ハ必ズ訴ノ方法ヲ以テ裁判所ニ請求スルニ因リ

第三 廢除ノ請求ハ何處ニ向テ之ヲ爲スヘキヤ 第九百七十五條及ヒ人事訴訟手續法第三十三條ニ依レム推定家督相續人ノ廢除ハ必ズ訴ノ方法ヲ以テ裁判所ニ請求スルニ因リ

第四 廢除ノ請求ハ何處ニ向テ之ヲ爲スヘキヤ 第九百七十五條及ヒ人事訴訟手續法第三十三條ニ依レム推定家督相續人ノ廢除ハ必ズ訴ノ方法ヲ以テ裁判所ニ請求スルニ因リ

第五 廢除ノ請求ハ何處ニ向テ之ヲ爲スヘキヤ 第九百七十五條及ヒ人事訴訟手續法第三十三條ニ依レム推定家督相續人ノ廢除ハ必ズ訴ノ方法ヲ以テ裁判所ニ請求スルニ因リ

第六 廢除ノ請求ハ何處ニ向テ之ヲ爲スヘキヤ 第九百七十五條及ヒ人事訴訟手續法第三十三條ニ依レム推定家督相續人ノ廢除ハ必ズ訴ノ方法ヲ以テ裁判所ニ請求スルニ因リ

第七 廢除ノ請求ハ何處ニ向テ之ヲ爲スヘキヤ 第九百七十五條及ヒ人事訴訟手續法第三十三條ニ依レム推定家督相續人ノ廢除ハ必ズ訴ノ方法ヲ以テ裁判所ニ請求スルニ因リ

第八 廢除ノ請求ハ何處ニ向テ之ヲ爲スヘキヤ 第九百七十五條及ヒ人事訴訟手續法第三十三條ニ依レム推定家督相續人ノ廢除ハ必ズ訴ノ方法ヲ以テ裁判所ニ請求スルニ因リ

第九 廢除ノ請求ハ何處ニ向テ之ヲ爲スヘキヤ 第九百七十五條及ヒ人事訴訟手續法第三十三條ニ依レム推定家督相續人ノ廢除ハ必ズ訴ノ方法ヲ以テ裁判所ニ請求スルニ因リ

第十 廢除ノ請求ハ何處ニ向テ之ヲ爲スヘキヤ 第九百七十五條及ヒ人事訴訟手續法第三十三條ニ依レム推定家督相續人ノ廢除ハ必ズ訴ノ方法ヲ以テ裁判所ニ請求スルニ因リ

人カ死亡シタル時ニ迦テ其效力ヲ生ス是レ遺言ニ基キテ下テシタル裁判ノ效力ハ遺言者カ死亡シタル時ヨリ生スルニ非ズレド遺言者ノ意思ヲ達スルヲ得ザレバナリトシテ遺言者ノ遺言ニ依リテ遺言者ノ意思ヲ達スルヲ得ルニテ何人ガ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ第百七十五條ハ推定家督相續人廢除ノ請求ハ獨リ被相續人ニノミ之ヲ許セテ故ニ推定家督相續人タル者カ第百七十五條ニ掲ケタル如キ事由存スルモ尙モ被相續人ニシテ廢除ノ請求ヲ爲テザル限リハ家督相續ニ付キ次ノ順位ニ在ル者又ハ其家ノ浮沈ニ付キ休戚ノ關係アル親族ト雖モ之カ廢除ヲ請求スルヲ得ヌ蓋シ此ノ如キ規定ヲ設ケタルハ元來廢嫡ハ重大ナル結果ヲ惹起スルヲ以テ被相續人以外ノ者ニ其請求ヲ爲スコトヲ許スニ於テハ往往ニシテ容易ニ親族間ノ平和ヲ破ルカ如キ狀態ヲ生スヘキヲ以テナリ被相續人ハ自己ノ意思ニ從テ隨意ニ廢除スヘキ相續ノ事由アル推定家督相續人ノ廢除ヲ請求シ得ルモノニシテ他ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス唯例外トシテ第百七十五條第二項ノ事由ヲ根據トシテ廢除ヲ行ハントセハ必ス親族會ノ同意ヲ得ザルヘカラス蓋シ第百七十五條第二項ノ

所謂正當ノ事由ナルコトハ其第一項ト異ニシテ意義甚タ廣キヲ以テ解釋者ノ見解ニ依リ其適用ノ範圍非常ニ擴メテレ時トシテハ同條第一項カ明文ヲ以テ廢除ノ場合ヲ限リタル精神ヲ失フノ虞ナシトセス故ニ法律ハ必ス親族會ノ同意アルヲ條件トシテ被相續人ノ專斷ニ流ルルヲ防キ以テ事實ノ便宜ト立法上ノ目的トヲ調和シタルモノナリトシテ遺言者ノ遺言ニ依リテ遺言者ノ意思ヲ達スルヲ爲スコトヲ許スヘキヤ推定家督相續人ノ廢除ヲ目的トスル訴ハ其推定家督相續人ヲ對手トシテ之ニ對シテ起スヘキハ論ヲ俟テス若シ推定家督相續人カ無能力者ナルトキハ其法定代理人ニ對シテ爲スヘキコトモ亦勿論ナリ而シテ被相續人カ其法定代理人ナルトキハ第百八十八條ニ依リ推定家督相續人ヲ代表スヘキ者ヲ相手方ト爲スヘキモノナリトシテ(丙) 家督相續人廢除ノ取消 推定家督相續人ニ家督ヲ相續セシムルコト能ハサルカ如キ事情アルトキハ之ヲ廢除スルハ當然ナレトモ其廢除スヘキ事由ハ消滅シタルトキハ廢除ノ取消ヲ爲スヲ得セシムルコトモ亦當然ナリ法律ハ廢除ノ取消ヲ爲スニハ二箇ノ條件ヲ必要トセリ即チ廢除ノ原因止ミタルコト及

如キ者ヲシテ一旦相續ヲ爲サシメタルトキハ廢除又ハ廢除取消ノ裁判カ確定シタル後ニ於テ相續開始後裁判確定前ニ未タ廢除セザレバ家督相續人又ハ廢除ニ因リ推定家督相續人ト爲リタル者ノ爲シタル行爲ハ總テ之ヲ無効ト爲ササルヘカラスシテ第三者ノ權利ヲ害スルコト尠カラサルカ故ニ第三者ヲ保護スル爲メ並ニ遺産ノ保存ヲ全ウスルカ爲メニハ法律ハ此間ニ於テ相當ノ規定ヲ爲ササルヘカラス是レ第九百七十八條ハ此ノ如キ場合ニ於テハ裁判所ヲシテ戶主權ノ行使及ヒ遺産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得セシメタル所以ナリ而シテ必要ナル處分トハ例ヘハ戶主權ノ行使ニ關シテハ法律ニ於テ之ニ代ヘシムルカ如キヲ云ヒ遺産ノ管理ニ關シテハ相當ノ管理人ヲ選任シテ一時財産ノ保存ヲ爲サシムルカ如キヲ云フ而シテ裁判所カ管理人ヲ選任シタルトキハ代理人ノ財産管理ニ關シテ設ケラレタル第二十七條乃至第二十九條ヲ準用スヘキモ茲ナリニ於テハ遺言相續人ノ遺言ニ依リテ第九百七十八條ニ依リテ裁判所カ必要ナル處分ヲ命スルハ親族利害關係人又ハ

檢事ヲ請求ナレバカラス故ニ此等ノ者ヨリ請求ナキトキハ裁判所ハ何等ノ處分ヲ命スルコト能ハス但シ推定家督相續人ノ廢除又ハ其取消請求中ニ相續開始シタルトキニ必要ナル處分ヲ命スルコトハ公益上ノ必要ヨリ起リタルコトナルヲ以テ親族又ハ利害關係人カ請求ヲ爲ササルニ於テハ公益ノ保護者タル檢事ハ其職責上必ス請求ヲ爲ササルヘカラス

茲ニ親族ト云フハ何人ハ親族ナルカ法律ハ之ヲ明言セスト雖モ文意ヲ補充シテ之ヲ解スルトキハ廢除又ハ廢除取消ノ請求ヲ爲シタル者ノ親族ヲ意味スト間ハ其處ヘカラス

遺言ヲ以テ推定家督相續人ノ廢除ノ意思ヲ表示シタル場合ニ於テ廢除ノ裁判確定スルコトヲ將ニ廢除セラルントスル者ニ戶主權ヲ行使セシメ又ハ遺産ノ管理ヲ爲ササルコトトシテ第三者ノ利益並ニ遺産ノ保存ニ付キ頗ル懸念アルコトトハ雖モ廢除請求後ニ相續ノ開始ヲタル場合ト同様ナルヲ以テ以上ニ述ヘタル所ハ廢除ノ遺言ノ不リシ場合ニモ亦適用ナルルモノナリ唯第九百七十八條ハ廢除ノ遺言アリシ場合ニモ規定シテ廢除取消ノ遺言アリタル場合ハ之ヲ規

定セラルカ故ニ廢除取消ノ遺言アリタルニ其裁判確定スルマテノ間ニ於テ其裁判所ハ何等ノ命令ヲモ爲コト能ハサルヘシ此場合ニ法律ハ何故モ必要處分ノ命令權ヲ裁判所ニ與ヘナリシカ予ハ其理由ヲ發見スルニ非シム

(12) 日本ノ國籍ヲ有スルコトヲ要スルニ法律ニ規定セザルニ非テハ家督相續人ト爲ルコトヲ得サルハ論ヲ埃タス而シテ日本ノ國籍ヲ有セサル者カ戸主ト爲ルコトヲ得サルハ戶籍法第七十條ノ規定ヨリ生スル當然ノ結果ナルノミナラス第九百六十四條カ國籍喪失ヲ以テ家督相續開始ノ一原因ト爲シタルヲ以テ見ルモ明カナリ故ニ日本ノ國籍ヲ有セサル者ハ家督相續人ト爲ルコトヲ得サルナリ

第二 家督相續人ノ順位
 家督相續人ノ順位ハ次ニ述フルカ如キ順序ニ從フモノナリ

(一) 直系卑屬
 (二) 指定家督相續人

(三) 特別選定家督相續人
 (四) 直系尊屬
 (五) 選定家督相續人

右ニ舉ケタル順序ニハ女戸主ノ入夫婚姻ニ因ル相續開始ノ場合ニ於テ一ノ例外アリ即チ此場合ニ於テハ入夫カ第七百三十六條ノ規定ニ依リテ其家ノ戸主ト爲ルモノナリ蓋シ入夫婚姻ヲ以テ家督相續開始ノ原因ト爲シタルハ從來ノ慣習ニ基キテ入夫ヲシテ其家ノ戸主タラシムルニ在リ然ルニ若シ相續順位ノ本則ニ依リ相續ヲ爲スモノト爲シ入夫以外ノ者カ家督相續ヲ爲ストモハ法律カ入夫婚姻ヲ以テ家督相續開始ノ原因ト爲シタル趣意ヲ失フヲ以テナリ但シ第九百七十一條ハ獨リ入夫婚姻ノ場合ノミニ付テ規定シ入夫ノ離婚ノ場合ニ付テハ何等ノ規定ナキヲ以テ入夫ノ離婚ニ因リ家督相續カ開始シタルトキハ其妻タリシ者カ代リテ戸主ト爲ルモノニ非スシテ民法規定ノ原則ニ戻リ入夫タリシ者ノ直系卑屬又ハ其他ノ家族ニ於テ相續ヲ爲スヘキハ勿論ナリ

(一) 直系卑屬

相續ノ順位ニ付テ成ルヘク自然ノ順序ニ從ヒ又成ルヘク被相續人ノ意思ニ從
 ハントセハ先ツ第一ニ顯ハルル者ハ被相續人ノ直系卑屬ナルハ論ヲ竣タ
 ス故ニ第九百七十條ハ家督相續ノ順位ヲ定メテ直系卑屬ヲ以テ其最先ニ置キ
 タリ然レトモ家族制度ヲ認メタル社會ニ於テ法規ヲ定ムル當リテハ家ノ存
 續ヲ維持スルコト立法者ノ第一ニ努メサルヘカラサルモノナルヲ以テ家督相
 續ノ順位ニ關シテモ一ニ被相續人ニ對スル簡人的ノ關係又ハ愛情ノミニ因リ
 之ヲ定ムルコト能ハス亦其家トノ關係ヲモ順ミサルヘカラス而シテ家ニ對ス
 ル關係ニ付テ云ヘバ家族タル者其家ト最モ密接ノ關係ヲ有スルカ故ニ家族
 タルト否トハ家督相續ノ順位ニ於テ自ラ區別ノ理由ト爲ルハ當然ナリ是レ第
 九百七十條カ家督相續ノ第六順位ニ奉ルヘキ直系卑屬ハ被相續人ノ家族タル
 コトヲ必要ト爲シタル所以ナリ人夫出願一因ニ附屬關係ニ對シテハ一ノ
 戶主ハ一人ノ外二人アルコトヲ許ササルヲ以テ之カ家督相續人タル者モ亦常
 ニ必ス一人ナラサルヘカラス故ニ若シ被相續人ノ家族タル直系卑屬カ多數ナ
 ル場合ニ於テハ勢ヒ其間ニ於テ更ニ其順位ヲ定メサルヘカラス民法ニ於テハ

親等男女嫡庶年齡ノ四者ニ依リテ直系卑族ノ間ニ家督相續ノ順序ヲ立テタル
 カ故ニ以下之カ解説ヲ爲サン

一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス

二 親等ノ近キ者ヲシテ先ツ家督相續ヲ爲サシムルハ相續ノ自然ノ順序ナリ故
 ニ子ト孫トノ間ニ在リテハ子ハ孫ニ先テテ相續ヲ爲シ孫ト曾孫トノ間ニ在
 リテハ孫ハ曾孫ニ先テテ相續ヲ爲ス

三 親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス

四 一家ノ長タル戶主ノ任務ヲ盡スニハ男子カ自ラ女子ニ優ル所アリト謂ハサ
 ルヘカラス故ニ家族制度ヲ有スル社會ニ於テハ常ニ男子ニ相續ノ優先權ヲ
 與ヘタリ我國從來ノ慣習モ亦然リ第九百七十條第一項第二號ハ畢竟此慣習
 ヲ數用シタルニ過キス

五 親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス

六 相續ニ關シテ正婚ノ間ニ生レタル子ト婚姻外ニ生レタル子ト同一視スル
 ハ社會ノ道義心ノ許ササル所ナルヲ以テ其間ニ區別ヲ設タルコトハ我國古

來ノ習俗ナルノミナラス又各國ノ立法例モ此ノ如シ故ニ第九百七十條第一
 項第三號ハ嫡出子タル者ハ常ニ先順位ニ在ルヘキコトヲ定ム唯同號ニハ男
 又ハ女ノ間ニ在リテハ下アルカ故ニ兄弟ニシテ嫡庶ノ區別アルトキ又ハ姉
 妹ニシテ嫡出私生相異ナルトキハ常ニ嫡出子ヲ以テ先順位ト爲スヘキモ
 ナレトモ兄ト妹ノ間又ハ姉ト弟トノ間ニ於テ嫡庶ノ區別アルトキハ同號ヲ
 適用スル能ハス此場合ハ前號ニ依リテ常ニ男子ヲ先ニスヘキモノナリ例
 ハ兄カ庶子ニシテ弟カ嫡出子ナルトキハ弟タル者カ家督相續人ト爲ルヘキ
 モノニシテ姉カ庶子ニシテ妹カ嫡出子ナルトキハ妹ニ於テ家督相續ヲ爲ス
 ヘキモノナレトモ姉カ嫡出子ニシテ弟カ庶子ナルトキハ庶子タル弟ハ家督
 相續ニ關シテハ嫡出子タル姉ヨリモ先順位ニ居ルヘキモノナリ例
 四 親等ノ同シキ嫡出子庶子及ヒ私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及ヒ庶子ハ女
 一ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス其間ニ在リテハ嫡出子及ヒ庶子ハ女
 私生子ナルモノハ婚姻外ニ生レタル者ニシテ而モ父ノ認知セサルモノナル
 カ故ニ法律ノ眼中ニ於テハ最モ排斥サルル所ナリ故ニ家督相續ニ於テハ

成ルヘタ男子ヲ以テ先順位ニ居ラシムルコトハ法律ノ望ム所ナルニモ拘ラ
 ズ其男子カ私生子ナルモノキハ法律ハ之ヲ嫡出子又ハ庶子タル女子ヨリモ後
 位ニ置キタルガヨリ例ヲ以テ示セバ私生子タル男子アル女戸主カ入夫婚姻ヲ
 爲シテ第七百三十六條但書ノ規定ニ依リテ依然トシテ其家ノ戸主タル場合
 ニ於テ婚姻中ニ女子ヲ生ミタルトキハ他日女戸主カ死シテ相續ノ開始シタ
 ル場合ニ於テ嫡出子タル妹ハ私生子タル兄ヨリモ先ツテ家督相續ヲ爲ス權
 利ヲ有スルモノナリ第九百七十條第一項第四號ハ嫡出子及ヒ庶子ハ女ト雖
 モ之ヲ私生子ヨリ先ニス下規定シテ女子ト雖モ嫡出子又ハ庶子ナル以上ハ
 私生子タル男子ニ先タシムルモノナルカ故ニ男又ハ女ノ間ニ在リテ庶子カ
 私生子ニ先ツモムタルコトハ勿論ナリ然レトモ同號ハ女子タル嫡出子及ヒ
 庶子ヲ男子タル私生子ニ對シテ規定スルカ故ニ嫡出子タル女子下庶子タル
 男子トノ間ニ於テハ同號ヲ適用スルコト能ハス第二號ハ規定ニ依リテ此場
 合ニハ男子ヲ以テ先順位ト爲スヘキハ前ニ述ヘタル所カ如シ同號ハ規定
 五 前四號ニ掲ケタル事項ニ付テ相同シキ者ト間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

民法編 家督相続 家督相續人

家督相續ニ付テ年長者ニ特權ヲ有セシムルコトハ猶ホ男子ニ優先ノ地位ヲ與フル如ク家督相續ノ性質自ラ然ラシムル所ナリ故ニ兄弟ノ間ニ在リテハ兄ヲ先ニシ姉妹ノ間ニ在リテハ姉ヲ先ニスヘキハ我國古來ノ慣習法ナリ而シテ新民法ハ此習慣法ヲ是認シテ第九百七十條第一項ノ第一號乃至第四號ノ事項相同シキ場合ニ於テハ年長者ニ優先ノ權利ヲ與フベコトト爲キ年長者ト云ヘハ事實ヲ言ヒ表ハス詞ナルヲ以テ事實生年月カ一日長シタル者ハ家督相續ニ關シテ優先ノ權利ヲ有スヘキモノカク唯父母ノ婚姻者タル父母子縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得シタル者又ハ養子縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得シタル者ハ家督相續ニ付テハ其嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生レタルモノト看做スコトハ第九百七十條第二項ノ規定スル所大カカ故ニ家督相續ノ順位ニ關シテ此ノ如キ者ノ年齢ヲ算スルニハ事實ノ年齢ニ依テモシテ其嫡出子タル身分ヲ取得シタル後ノ年月ニ依ルヘキモノナリ例ヘハ甲ナル嫡出ノ男子ヲ有スル者カ結婚ニ因リテ其妻タル者トノ間ニ會テ婚姻前ニ於テ生レタル乙ナル私生子カ嫡出子タル

身分ヲ取得シタル場合ニ於テ乙カ甲ヨリモ事實年長者ナルトモ若シ第九百七十條第二項ノ如キ規定ナカレバ乙カ甲ニ先テ家督相續ヲ爲スノ權利ヲ有スヘキモノナリトモ同項ノ規定又ハ依リ乙カ嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生レタルモノト看做テ家督相續ニ關シテ法律上乙カ甲ヨリモ年少者タラサルヲ得同隨テ甲ニ先テ家督相續ヲ爲スヲ得又例ヘハ一人ノ女子ト二人ノ男子ヲ有スル者カ其女子ノ爲メニ培養子ヲ爲シタル其養子カ二人ノ男子ヨリモ年長者ナル場合ニ於テ推定家督相續人タル長男ハ之カ爲メニ其相續權ヲ得セラルコトナキハ第九百七十三條ノ明カニ規定スル所ナリトモ若シ第九百七十條ノ第二項ノ如キ規定ナカレバ長男カ死シタル場合ニ次テ家督相續人ト爲ル者ハ次男ニ非スシテ其姉ノ培養子ナリト看做ハサルヘカラス然ルニ本項ノ規定アルカ爲メニ次男ハ其姉ノ培養子ヲ排シテ家督相續人ト爲ルコトヲ得ルモノナリ此規定ハ願事條ニ違ヒリト信ス何トナレハ若シ此ノ如キ規定ナカレバ法律ハ一方ニ於テハ父母ノ婚姻又ハ其婚姻中ノ認知ニ因リテ庶子又ハ私生子ニ嫡出子タル身分ヲ得セシメ

ヲ以テ人事上ノ必要ニ満足スルモ之ト同時ニ他ノ一方ニ於テハ年少者タル嫡出子ノ既得ノ利益ヲ盡スル結果ヲ生ズルヲ以テナクハ其利益ノ一部以上ニ遺ヘタル所ハ原則ナリ此原則ニハ三箇ノ例外アリ即チ左ノ如キハ第一ノ例外 是レ第九百七十二條ニ規定スル所ニシテ第七百三十七條又ハ第七百三十八條ノ規定ニ依リ家族ト爲リタル直系卑屬ハ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直系卑屬ナキ場合ニ非サレハ家督相續人ト爲ルコトヲ得ス此條ハ世俗ニ所謂遺レ子ノ相續權ヲ規定シタルモノナリ所謂遺レ子ナルモノハ縱令男子ニシテ且ツ年長者ナルモ他ノ嫡出子又ハ庶子タル女子ニシテ而モ年少者ニ對シテモ猶ホ相續ノ順位ヲ讓ラサルヘカラス本條立法上ノ趣意ハ大體ニ於テ第九百七十條第二項ノ規定ト同シト他ヨリ入りテ家族ト爲リタル直系卑屬ヲシテ其家ニ生レタル嫡出子又ハ庶子ノ利益ヲ盡セザルニ出テタルモノナリ第九百七十二條ハ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直系卑屬ナキ場合ニ限リ云云下アリ本條ノ意味ハ相續カ開始セタルトキ此等ノ直系卑屬ノナキ場合ヲ謂フカ又ハ第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規定ニ依リテ家族ト爲リタル直系卑

屬カ其家族ト爲リタル時ニ於テ此等ノ直系卑屬オキトキヲ謂フカ若シ前ノ章味ナリトセハ第七百三十七條又ハ第七百三十八條ノ規定ニ依リテ家族ト爲リタル者ハ其家族ト爲リタル時ニ於テハ他ノ直系卑屬オカリシモ後ニ嫡出子又ハ庶子ノ生レタルトキニ於テモ尙ホ之ニ對シテ相續ノ順位ヲ爭フコト能ハサルヘシ若シ又後ニ遺ヘタル意味ナリトセハ其家族ト爲リタル當時ニ於テ他ノ嫡出子又ハ庶子ナキ以上ハ後ニ生レタル嫡出子又ハ庶子ニ對シテハ第九百七十一條ノ規定ニ依リ男女嫡庶年齢ノ如何ニ從ヒ相續ノ順位ヲ定ムヘキモノナリ第九百七十二條ノ規定ハ此點ニ於テ稍明瞭ヲ缺キタリ若シ此條ヲ以テ他ヨリ入りテ家族ト爲リタル者ヲシテ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直系卑屬ノ既得ノ地位ヲ奪セザラシムルヲ以テ趣意ト爲スモノナリトセハ第七百三十七條又ハ第七百三十八條ノ規定ニ依リ家族ト爲リタル者ヨリモ後ニ生レタル嫡出子又ハ庶子ハ其者ニ對シテ既得ノ地位ヲ有セザルカ故ニ他ヨリ入りテ家族ト爲リタル者若ハ其當時ニ於テ他ノ嫡出子又ハ庶子ナキ以上ハ相續權ヲ得ルニ於テ何等ノ妨ケアルモノニ非ス何トナレハ同シク既得ノ地位ヲ保護スルノ規定ナリ第九

百七十條第二項ハ第八百三十六條ノ規定ニ依リ又ハ養子縁組ニ因リテ嫡出子
 ナル身分ヲ取得シタル者ニ付テハ其遺出子タル身分ヲ取得シタル時以後ニ生
 レタル嫡出子ニ對シテ優先ノ地位ヲ有セヨトアレハナリ然レドモ第九百七十
 二條ノ規定ノ趣意ハ大體ニ於テハ第九百七十條第二項ト相似タリト雖モ全條
 之ト同一ナリト謂フニト得サルヘシ第九百七十條第二項ノ場合ハ其嫡出子
 タル身分ヲ取得シタル者ハ父母ノ雙方ニ對シテ實子ナルカ又ハ實子ニ準セラ
 ルヘキ者ナルカ故ニ成ルニテ婚中ニ生レタル實子ト權利ヲ同シクセシメテ
 可ナリ唯既得ノ地位ヲ有スル者ヲサテ其地位ヲ失ハシムルハ經常ナラザルヲ
 以テ之ニ對シテフミ優先ノ權ナキモノト爲シ以テ既得ノ地位ヲ有スル嫡出子
 ヲ保護スルノ趣意ニ出テタル是ノナリト雖モ第九百七十二條ノ場合ハ然ラズ
 所謂連レ子ナルモノハ戸主ノ直系卑屬ナリト雖モ其配偶者ニ對シテハ血族ノ
 關係アル者ニ非ス故ニ此ノ如キ者ヲシテ家督相續ヲ爲サシムルハ他ニ至ク直
 系卑屬ノ相續ヲ爲スヘキ者ナキ場合ヲミニ限ルヲ以テ相當トス換言セバ同條
 ハ既得ノ地位ヲ有スル者ヲ保護スルコトハ專ラ他ヨリ入リシ者ニ對シテ其家

ニ生レタル者ヲ保護スルノ精神ニ出テタルモノト謂フコトヲ得ヘシ果シテ然ラ
 ハ其家ニ生レタル嫡出子又ハ庶子カ他ヨリ入リテ家族ト爲リタル者ノ其家ニ
 入りタル當時ニ於テ既ニ生レタルト將タ其後ニ生レタルトニ由リ區別スヘキ
 理由毫モ存スルコトナシ加之元來相續ニ關スル規定ヲ解釋スルニハ明文ヲ以
 テ除外セザル限リハ常ニ相續開始ノ時ニ在テ觀察セザルヘカラス家督相續ノ
 順位ニ關スル規定タル第九百七十二條ハ明カニ時期ヲ掲記スル所ナキカ故ニ
 之ヲ解釋スルニハ相續開始當時ノ現狀ニ據リ觀察スルコト當然ナリ隨テ相續
 開始ノ當時ニ於テ嫡出子又ハ庶子タル直系卑屬ノ存スル以上ハ他ヨリ入りテ
 家族ト爲リタル直系卑屬ハ相續ヲ爲スコト能ハス殊ニ以上ノ如ク解セザルト
 ナハ甚ク奇ナル結果ヲ生スルニ至ルヘシ即チ若シ戸主カ其女子ニシテ他家ニ
 在ル者ヲ自己ノ家ニ入レテ家族ト爲シタル後チ嫡出ノ一女ヲ擧ケ其後ニ至リ
 テ更ニ其男子ニシテ他家ニ在ル者ヲ入レテ家族ト爲シタルトキハ反對ノ解釋
 ニ從ヘハ初ニ家族ト爲リタル女子ハ其家ニ生レタル嫡出ノ女子ニ先チテ家督
 相續人ト爲ルヲ得ルモ其後ニ家族ト爲リタル男子ハ之ニ先ツコトヲ得ス然ル

ニ其男子ハ當初家族ト爲リタル女子ニ對シテハ相續上優先ノ地位ヲ有スルヲ以テ其家ニ於テ女子ノ生ルル以前ニ於テ他ヲ入りテ其女子アリテ爲メニ後ニ其家ニ入りテ家女ニ先ツ能ハサル者カ却テ之ニ先ツミ至ルヘシ或ハ曰ハン當初家族ト爲リタル女子ハ其當時嫡出子ナカリシ爲メ當然家督相續人タル權利ヲ得タル者ナリ後ニ家族ト爲リタル男子ハ其當時嫡出子アリタル爲メ家督相續人ト爲ルコトヲ得ス而シテ其男子ニシテ相續ニ關シ其家ニ生レタル嫡出ノ女子ニ勝ツコト能ハストモ其家女スラ尙ホ勝ツコト能ハサル當初家族ト爲リタル女子ニ對シテハ無論之ニ勝ツコト能ハスト然レトモ此論ヲ採ルニハ第九百七十二條ノ所謂他ノ直系卑屬ナキ場合ニ限リ第九百七十條ニ定メタル順序ニ從ヒテ爾法文ノ意義ヲ解シ他家ヨリ戸主ノ直系卑屬ヲ入レタル當時ニ於テ嫡出ノ直系卑屬ナキ場合ハ第九百七十條ニ定メタル順序ニ從フヘキモノナリト雖モ他ノ直系卑屬アリタル場合ニハ之ニ從ハサルモノト爲ササルヘカラス若シ此ノ如ク解スルトキハ他家ニ在ル女子ヲ入レテ其家族ト爲シタル後ニ出ノ男子カ生レタル場合ニモ其男子ハ女子ヲ排スル能ハスト然レサルヘカ

ラス然ルニ第九百七十條ハ初ヨリ其家ニ生レタル女子ヌラ男子ニ對シテハ其地位ヲ讓キサルヘカラスト定メタルニ他ヨリ入りタル女子ニシテ其家ニ生レタル男子ヲ排スルカ如キ結果ヲ見ルニ至ルハ斷然法律ノ精神ニ非サルヘシ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直系卑屬ナキ場合ニ於テ他ヨリ入りテ家族ト爲リタル直系卑屬ノ相續ノ順位ハ本則ニ依リ第九百七十條ニ定メタル順序ニ從フヘキモノナリ而シテ其順序ハ其家ニ入りタル前後ニ因リ變更セラレルコトナシ故ニ後ニ其家ニ入りタル直系卑族ニテモ男子ナルトキハ前ニ入りタル女子ヨリモ先テ年長者ナルトキハ年少者ヨリ先ツモノナリ

第二ノ例外ニ是レ第九百七十三條ノ規定スル所ニシテ法定ノ推定家督相續人ノ姉妹ノ爲メニスル婿養子ハ推定家督相續人ノ相續權ヲ害スルコト能ハス第八百三十九條ニ依リテ觀レハ女婿ト爲ス場合ノ外ハ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スコト能ハス此規定ヨリ推論セハ推定家督相續人ヲ有スル者ニテモ次ニ述フル如キ場合ニ於テハ猶ホ養子ヲ爲スコトヲ得

(4) 推定家督相續人カ男子ナルトキハ女子ヲ養子ト爲スコトヲ得

(ロ) 推定家督相續人カ男子ナルトキニテモ其女子ノ爲トニ男子ヲ塔養子ト爲ス
 (ハ) 妨ケスルニテモ其女子ノ爲トニ男子ヲ塔養子ト爲ス
 (ニ) 推定家督相續人カ女子ナルトキハ其塔養子トシテ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得
 (三) 推定家督相續人カ女子ナルトキハ其姉妹ノ爲トニ男子ヲ塔養子ト爲スコト
 ヲ得
 (四) 推定家督相續人カ女子ナルトキハ其塔養子トモスシテ男子ヲ養子ト爲スコト
 (五) 推定家督相續人カ女子ナルトキハ塔養子トモスシテ男子ヲ養子ト爲スコト
 ヲ得
 (六) 推定家督相續人カ女子ナルトキハ女子ヲ養子ト爲スコトヲ得
 (七) 推定家督相續人カ女子ナルトキハ女子ヲ養子ト爲スコトヲ得
 第九百七十三條ノ規定ハ右ニ述ヘタル中ノ(ニ)ノ場合ニ對スル例外ニシテ此ノ
 如キ場合ニ於テハ其塔養子タル者ハ養子縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得
 スルモ既ニ推定家督相續人タル所ノ女子ノ相續權ヲ害スルコトヲ得ス即チ法
 律ハ其者ノ既得權ヲ保護シタルモノナリ前述(イ)ノ二ツノ場合ニ於テ法律カ
 何等ノ例外ヲモ設ケザルハ極ムニ足ラス何トナレハ(イ)ノ場合ニ於テハ養子
 ハ女子ナルガ故ニ全然男子ニ勝ツコト能ハス(ロ)ノ場合ニハ塔養子ハ第九百七

コトヲ得ス然リト雖モ經合手形法上ノ結果トシテ云々振出人又ハ引受人ハ時效
 ノ成就セラルカ又ハ所持人カ手續ヲ怠リタルカ爲メニ事實ニ於テ不當利得
 ル場合ナシトモ此不公正ノ結果ヲ救済スルカ爲メニ第四百四十四條ノ規
 定ヲ設ケタリ即チ本條ノ規定ニ依リ不當利得返還ノ訴ヲ爲シハ左ノ條件ヲ
 必要トス
 (一) 請求セシトスル所ノ不當利得ハ手形ヨリ生ズタル債權ヲ特効又ハ再續ノ
 欠缺ヨリ消滅シタルニ基クニ本條ノ訴ヲ爲ス者若シ特効力成就セズ又
 ハ手續ノ欠缺ナカリシトモハ當然手形上ノ債權者ナル地位ニ在ル者ナルヲ要
 ス故ニ若シ元來其手形カ無効ナルトキハ本條ノ訴モ亦生ズヘキモ之ニ非ズ隨
 テ本條ノ訴ヲ起ス者ハ若シ時効又ハ手續ノ欠缺ナカレバハ當然效力不備ノ手
 形ヲ以テ不當利得請求ノ證明ト爲サザルカラスニ(二)ノ規定又ハ手
 形ノ訴ヲ爲ス者ハ常ニ所持人ナラズルニカラス故ニ中間人裏書人ハ
 本條ノ訴權ヲ有セス而シテ茲ニ所持人トシテ最後ニ被裏書人若シハ最後ニ被裏
 書人タリ得ル地位ニ在ル者ヲ謂フ故ニ其他ノ事由ニ因リテ手形ヲ所持スル者

前手手形 手形ニ關スル證明 手形上ノ不當利得

ハ之ヲ包含セシムルニ由リ其由ニ依リテ其手形ニ對シテ不當利得ノ訴ノ相手方ハ振出人又ハ引受人ナラザルコトヲ要スハ故ニ振出人又ハ引受人以外ノ者ニ對シテハ本條ノ訴ヲ起スコトヲ得ズ其所以ハ振出人ハ手形ヲ發行シ受取人以下ノ者ニ賣却シテ對價ヲ得タルニ拘ハラヌ時效又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ其手形ヨリ生スル義務ヲ免レタル場合ニハ概シテ不當利得シタルモノナルヘシ又引受人ニ於テモ手形資金ヲ受取リタルニ拘ハラヌ右ト同一ノ事由ヨリ支拂義務ヲ免レタルトキハ又不當利得スルコトアルヘクシムナリ此ノ如ク振出人ト引受人トニ付テハ不當利得ト場合起ルト雖モ中間ノ裏書人ニ付テハ概シテ此ノ如キ利得ヲ生セズ蓋シ中間ノ裏書人ハ振出人ト所持人トノ間ニ於ケル媒介者ノ如キ地位ニ在ルモノニシテ通常對價ヲ拂ヒテ手形ヲ讓受ケ又對價ヲ得之ヲ讓渡スルコトナリ又偶々贈與ニ因リテ手形ヲ取得シ而シテ之ヲ有價ニ讓渡スルコトナリトスルニ其贈與ニ因リテ利得スルハ之ヲ不當ノ利得ト稱フコトヲ得ズ要スルニ第四百四十四條ニ於テ不當利得ノ被告ヲ振出人又ハ引受人ニ限リタルハ右ノ如ク理由ハ引受人ハ振出人

商法手形

(四) 不當利得ノ訴ニ依リテ請求シ得ヘキ金額ハ振出人又ハ引受人カ手形ノ時效又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ手形債權カ消滅シタルカ爲メニ受ケタル利益ノ限度ヲ以テ制限トス若シ毫モ利益ヲ受ケタルコトナクシハ此訴ハ實質上成立セズ故ニ所持人ハ振出人ニ對シテ振出人カ受取人ヨリ對價ヲ受取リタルコト振出人ハ引受人ニ對價ヲ供セタルコト又ハ特別ニ供スルノ必要ナキコト又ハ一旦供シタル資金ヲ取戻シ得ルコトヲ證明セタルヘカラス又引受人ニ對シテハ引受人カ資金ヲ受取リテ之ヲ返還セタルコトヲ證明スルコトヲ要ス

商法手形 終

和佛法律學校

商法手形

商法手形學

商法手形目次

第一編 總論

第一章 緒言

第一節 手形法ノ法源

第二章 手形ノ法律上ノ概念

第一節 手形ノ定義

第二節 手形ノ行動及ヒ之ニ伴フ法律關係

第三章 手形ノ經濟上ニ於ケル作用

第四章 手形義務ノ性質ニ關スル學說

第五章 手形ノ特性

第二編 爲替手形

第一部 爲替手形ノ成立及ヒ其單純ナル行動

商法手形目次

第一章 爲替手形ノ振出

第二章 裏書

第一節 裏書ノ方式

第二節 裏書ノ性質

第三節 裏書ノ效力

第四節 裏書ノ種類

第一項 白地裏書

第二項 無擔保ノ裏書

第三項 裏書禁止ノ裏書

第四項 裏書ノ種類

第一項 白地裏書

第二項 無擔保ノ裏書

第三項 裏書禁止ノ裏書

商法手形目次

第四項 支拂拒絶證書作成期間經過後ノ裏書

第五項 支手形上ノ債權者ニ爲ス裏書

第六項 取立委任ノ裏書

第七項 買入ノ裏書

第三章 引受

第一節 引受ノ爲メニ示ル表示

第二節 引受ノ方式

第一項 完全ナル引受ノ方式

第二項 署名スミヲ以テスル引受ノ方式

第三節 引受ノ性質

第四節 引受ノ效力

第四章 支拂

第一節 支拂ノ爲メニ示ル表示

第二節 支拂ノ時期

第三節 支拂ノ目的	一一八
第四節 支拂ニ關スル人	一二九
第五節 支拂ノ方法	一三一
第二部 爲替手形ノ複雑ナル法律關係	一三三
第一章 手形ノ保證	一三三
第一節 保證ノ方式	一三五
第二節 保證ノ效力	一三四
第三節 手形保證ノ遡及權	一三五
第二章 爲替手形ノ複本及シ贖本	一三六
第一節 爲替手形ノ複本	一三八
第一款 複本ノ作成	一三八
第二款 複本ノ請求權	一三九
第三款 複本相互ノ關係	一四〇
第四款 複本ノ流通	一四四

第三章 爲替手形ノ贖本

第一節 爲替手形ノ遡及權	一四九
第一款 爲替手形ノ遡及權	一五〇
第二款 爲替手形ノ遡及權	一五〇
第三款 爲替手形ノ遡及權	一五一
第四款 爲替手形ノ遡及權	一五二
第五款 爲替手形ノ遡及權	一五二
第六款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第七款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第八款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第九款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第十款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第十一款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第十二款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第十三款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第十四款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第十五款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第十六款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第十七款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第十八款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第十九款 爲替手形ノ遡及權	一五三
第二十款 爲替手形ノ遡及權	一五三

第四章 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係

第一節 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一四九
第一款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五〇
第二款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五〇
第三款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五一
第四款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五二
第五款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五二
第六款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第七款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第八款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第九款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第十款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第十一款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第十二款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第十三款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第十四款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第十五款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第十六款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第十七款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第十八款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第十九款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三
第二十款 爲替手形ノ變調ナル行動ニ於ケル法律關係	一五三

第四編 戻書手形……………一七六

第二節 手形ノ参加……………一八一

第一款 戻書權支拂人……………一八二

第二款 参加引受……………一八五

第一項 参加引受ノ性質……………一八五

第二項 所持人ノ選擇權……………一八七

第三項 参加引受ノ方式……………一八九

第四項 参加引受人ノ效力……………一九〇

第三款 参加支拂……………一九一

第一項 参加支拂ノ性質……………一九一

第二項 参加支拂ニ關スル所持人ノ義務……………一九二

第三項 参加支拂ノ效力……………一九四

第三節 拒絶證書……………一九五

第三編 約束手形……………二〇五

第四編 小切手……………二〇九

第五編 手形ニ關スル雜則……………二一七

第一章 手形ノ偽造、變造……………二一八

第一節 偽造手形……………二一八

第二節 變造手形……………二二〇

第二章 手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ノ爲メ……………二二三

ニスル行爲ノ場所……………二二三

第三章 手形ノ時效……………二二五

第四章 手形上ノ不當利得……………二二八

商法手形目次 終

新法手紙目次

第一章 總論 一〇

第二章 手紙ノ種類 一〇

第三章 手紙ノ成立 一〇

第四章 手紙ノ效力 一〇

第五章 手紙ノ消滅 一〇

第六章 手紙ノ執行 一〇

第七章 手紙ノ破産 一〇

第八章 手紙ノ遺言 一〇

第九章 手紙ノ遺贈 一〇

第十章 手紙ノ遺囑 一〇

第十一章 手紙ノ遺贈 一〇

第十二章 手紙ノ遺贈 一〇

第十三章 手紙ノ遺贈 一〇

第十四章 手紙ノ遺贈 一〇

第十五章 手紙ノ遺贈 一〇

第十六章 手紙ノ遺贈 一〇

第十七章 手紙ノ遺贈 一〇

第十八章 手紙ノ遺贈 一〇

第十九章 手紙ノ遺贈 一〇

第二十章 手紙ノ遺贈 一〇

第二十一章 手紙ノ遺贈 一〇

第二十二章 手紙ノ遺贈 一〇

第二十三章 手紙ノ遺贈 一〇

第二十四章 手紙ノ遺贈 一〇

第二十五章 手紙ノ遺贈 一〇

第二十六章 手紙ノ遺贈 一〇

第二十七章 手紙ノ遺贈 一〇

第二十八章 手紙ノ遺贈 一〇

第二十九章 手紙ノ遺贈 一〇

第三十章 手紙ノ遺贈 一〇

第三十一章 手紙ノ遺贈 一〇

第三十二章 手紙ノ遺贈 一〇

第三十三章 手紙ノ遺贈 一〇

第三十四章 手紙ノ遺贈 一〇

第三十五章 手紙ノ遺贈 一〇

第三十六章 手紙ノ遺贈 一〇

第三十七章 手紙ノ遺贈 一〇

第三十八章 手紙ノ遺贈 一〇

第三十九章 手紙ノ遺贈 一〇

第四十章 手紙ノ遺贈 一〇

第四十一章 手紙ノ遺贈 一〇

第四十二章 手紙ノ遺贈 一〇

第四十三章 手紙ノ遺贈 一〇

第四十四章 手紙ノ遺贈 一〇

第四十五章 手紙ノ遺贈 一〇

第四十六章 手紙ノ遺贈 一〇

第四十七章 手紙ノ遺贈 一〇

第四十八章 手紙ノ遺贈 一〇

第四十九章 手紙ノ遺贈 一〇

第五十章 手紙ノ遺贈 一〇

ノ辨濟ヲ爲スニ付テ破産主任官ノ指圖ニ從フコトナシ又管財人ハ財團債權ヲ辨濟スルニ際シテ(甲)前述ノ理由ニ依リ破産債權ニ先チテ財團債權ノ辨濟ヲ爲スノ職務ヲ負フト雖モ取戻權及ヒ別除權ニ基クテ職務履行前ニ於テ財團債權ヲ完済スルコトヲ得不何トナレハ斯ル職務ノ履行完了後ニ非テハ破産手續ノ目的ニ供スヘキ財產大分ト謂フコト能ハレハ(乙)破産財團カ各財團債權ヲ完済スルニ不足ナルモト明白ト爲ラタル以後ニ在テハ管財人ハ商法第千三十二條ニ規定セル順位ニ從ヒ財團債權ヲ辨濟シ又同順位ノ財團債權ヲ完済スルコト能ハサルトキハ平等ノ割合ヲ以テ辨濟ヲ爲スモトヲ要ス是レ蓋シ破産財團カ各財團債權ヲ完済スルニ不足ナルコト明白ナル場合ニ於テモ各財團債權者ヲシテ各別ニ其權利ヲ主張シ以テ辨濟ヲ受タルコトヲ得セシムルハ條理上其宜キヲ得タルヲ以テナリ隨テ破産財團カ各財團債權ヲ完済スルニ不足ナルコト明白ト爲リタル以後ニ於テ斯ル法則ニ違背シ管財人ヨリ任意ノ辨濟又ハ不任意ノ辨濟強制執行ノ方法ニ依レル辨濟ヲ受ケタル財團債權者ハ不當利得ヲ許ササル法則ノ適用ニ依リ其受ケタル餘分ノ辨濟額ヲ管財人ニ返還

破産法 債權規定 破産財團

セザルヘカラス又新民法則ニ違背シテ辨濟ヲ爲シタル管財人ハ財團債權者ニ對シ損害ヲ負ニ性セザルヘカラス商法第一〇三條破産法案第四〇條獨逸破産法第八二條但破産法案ニ於テハ破産者及其家族以外ノ財團債權者ノ利益ヲ保護シ扶助料云々他ノ財團債權ニ先チテ辨濟スルコトヲ得セシメス破産法案第四〇條但書隨テ破産法案ニ於テハ唯扶助料云々他ノ財團債權ヨリ劣等ノ順位ヲ有スル辨濟ノ之ニ反シテ破産財團カ各財團債權ヲ完済スルコト不足ナルコト未カ明白ト爲ラザル以前ニ在リテハ管財人ハ法定ノ順位ニ從ヒ又ハ平等ノ割合ヲ以テ各財團債權ヲ辨濟スルコトヲ要セス却テ主張セラレタル各財團債權ニ付キ各別ニ適當ナル辨濟ヲ爲スコトヲ要ス蓋シ財團債權者ハ破産債權者ニ非ナルヲ以テ各別ニ其權利ヲ管財人ニ對シ主張スルコトヲ得ヘキモノニシテ商法第九八七條ノ如キ規定破産法案第八條ハ財團債權者ニ適用ナケルナリ破産法案第四十條ノ反對推理解獨逸破産法第一二條第一四條第一五條隨テ破産財團カ各財團債權ヲ完済スルコト不足ナルコト未カ明白ト爲ラザル以前ニ於テ各財團債權者カ一旦管財人ヨリ受ケタル辨濟又ハ得タル物上

擔保ノ爾後破産財團カ各財團債權ヲ完済スルニ不足ナルコト明白ト爲リタルカ爲メニ其效力ヲ喪失セシ故ニ財團債權者ハ其受ケタル辨濟ヲ管財人ニ返還スル責ナク又破産財團ニ屬スル財團債權上ニ設定セラレタル擔保權ヲ有效ニ行フコトヲ得又管財人ハ他ノ財團債權者ニ對シ損害賠償ノ責任ヲ負フコトナシ而シテ破産財團カ各財團債權ヲ完済スルニ不足ナルコト否ヤハ現行破産法ニ於テハ破産主任官カ管財人ノ申立財團ノ情況利害關係人ノ申出並ニ立證等ニ基キテ認定スヘキ事實問題ニシテ商法第一〇三條……指圖ニ從ヒ……民
 事訴訟法第二一七條又斯ル問題ニ關スル破産主任官ノ命令ニ對シテハ利害關係人カ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ商法第九八三條破産法案ニ於テハ管財人カ認定スヘキ事實問題ニシテ裁判所ノ決定ヲ以テ認定スヘキモノニ非ス(獨逸破産法ノ解釋トシテハハゾキフエド氏ハ管財人カ之ヲ認定シ裁判所カ決定ヲ以テ之ヲ認定スルモノニ非スト主張セラルルコトヲ云キモモトスキ一氏等ハ破産裁判所カ之ヲ認定スヘキモノト主張シ又ハエダールハハズアルペン氏等ハ爭アル場合ニハ受訴裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ認定スヘキモノト主

張シタリ(獨逸破産法第七三條)又破産財團カ各財團債權ヲ完済スルニ不足ナル場合ニ於テ管財人カ各財團債權者ニ對シ其債權額ヲ割合ニ應ジ辨濟ヲ爲ス手續ニ關シテハ法律上別段ノ規定ナキヲ以テ管財人ハ其適當ト認ムル方法ニ從ヒテ辨濟ヲ爲スコトヲ得故ニ管財人ハ適宜ニ作成シタル計算書ニ基キテ配當ヲ爲シ又ハ利害關係人ト協議シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得後者ノ方法ハ利害關係人ノ異議ヲ杜絶スルノ利益アリ破産債權ニ對スル配當手續カ斯ル辨濟ニ準用セラルヘシトノ見解ハ多數ノ學者ノ探ラサル所ナリ而シテ財團債權中其債權者ノ不分明ナルモノニ充テタル辨濟ハ之ヲ供進シ又爭ニ係リタルモノハ利害關係人ヲシテ確認ノ訴ヲ以テ之ヲ確定セシメ(財團債權ニ關スル訴訟ハ破産手續ニ屬セサルヲ以テ破産裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ非ズ)尙法第一〇三二條獨逸破産法第六〇條(丙)管財人ハ優先權ヲ以テ擔保セラレタル財團債權ニ付キ優先的辨濟ヲ爲ササルヘカラス財團債權ハ其性質上前述ノ如ク破産財團中辨濟ヲ受タルニ止マルヲ以テ破産財團ニ屬セタル財産上ニ物上擔保ヲ設定シ或ハ對人擔保ヲ約定シテ財團債權ヲ擔保シ其效力ヲ強大ナラシムルハ法律

律ノ許ササル所ナレトモ破産財團ニ屬スル財産上ニ物上擔保ヲ設定シ一定ノ財團債權ノ效力ヲ確實ニスルコトハ法律ノ禁スル所ニ非ス而シテ破産財團カ各財團債權ヲ完済スルニ不足ナルコト未タ明白ト爲ラサル以前ニ於テ財團債權者ノ取得シタル物上擔保ハ爾後破産財團カ各財團債權ヲ完済スルニ不足ナルコト明白ト爲リタルカ爲メニ其效力喪失スルモノニ非サルヤ前述ノ如ク故ニ破産財團カ各財團債權ヲ完済スルニ不足ナル場合ニ於テ物上擔保ヲ有スル財團債權者ハ別除權者カ他ノ破産債權者ヨリ優先的辨濟ヲ受タルト同シトモ財團債權者ヨリ擔保物ノ賣得金ニ付キ優先的辨濟ヲ受タルコトヲ得ヘシ財團債權ノ主張ヲ講了スルニ臨ミ注意スヘキコトハ債權者カ其有スル債權ヲ財團債權ニ主張スルコトヲ得ルヤ否ヤ又其財團債權ハ如何ナル順位ヲ有スルヤ否ヤノ問題即チ財團債權ニ關スル涉外私法ノ問題是ナリ前述ノ如ク財團債權ハ破産債權者團體ノ法律關係ヲ規定スル法律ニ依ラテ決定セララルベクナリ故ニ此等ノ問題ニ關シテハ破産裁判所所在地ノ法律ニ從ヒ之ヲ決定スルキ事疑ラ容レサルヘシ(獨逸破産法第七三條)又破産財團カ各財團債權ヲ完済スルニ不足ナル

(d) 喪失 財團債權ハ前述ノ如ク破産手續ニ依ラスシテ行フ權利ニシテ破産債權者團體ニ對スルモノナルヲ以テ(1)管財人カ財團債權ノ存在ヲ知ラス隨テ之ニ辨濟ヲ爲サスシテ破産財團ノ配當ヲ完了シタルトキハ之ニ依リ財團債權者ハ其權利ヲ喪失スルヲ當然ナリトス此場合ニ於テハ財團債權者有キレ者ハ各破産債權者及ヒ破産者ニ對シ財團債權者トシテ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ財團債權ニ對シテハ單ニ破産債權者團體カ破産財團ヲ以テ其責ニ任ズルニ過キナレハナリ(破産者ヲ以テ財團債權ニ對スル債權ヲ負フ者ト主張スル反對説ヲ採ラハ財團債權者ハ其權利ニ付キ破産財團ヨリ完済ヲ受ケタル以此ハ破産手續終結後尙ホ破産者ニ對シ辨濟ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノナリト立論セラルヘカラス)又管財人ニ對シテ之カ爲メニ被リタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス蓋シ管財人ハ其知レタル財團債權ヲ辨濟スルニ由ナキヲ以テ斯ル財團債權ニ辨濟ヲ爲サザリシ一事ニ依リ損害賠償ノ責ニ任ズヘ管理財人ヲ以テナリ故ニ財團債權者ハ管財人ニ對シ其權利ノ存在ヲ認識セシムルヲ適當ナル手續ヲ悉ヌヲ可ナリトス蓋シ管財人ハ當然總テハ財團債權ヲ認識セシム

於テ開フコトヲ得ルモノナリ而シテ管財人ヲ以テ財團債權ノ存在ヲ認識セシムル時期ハ法律上別段ノ規定ナシト雖モ破産財團ノ現存スル時間内ニ限ルコトハ破産財團ト共ニ消滅スヘキ財團債權ノ性質ニ徴シ明白ニシテ又財團債權ヲ認識セシムル方法ニ關シテハ法律上別段ノ規定ナキヲ以テ財團債權者カ其適當ナルヲ認ムル方法ヲ選擇スルコトヲ得ルヤ言ヲ待タズ此ノ如ク管財人カ財團債權ノ存在ヲ知ラザリシ場合ニ於テ其ノヲ認識セシムルニ適當ナル手續ヲ悉サザリシ財團債權者ハ破産財團ノ消滅ニ依リ其權利ヲ喪失スルヲ以テ破産手續終結後各破産債權者ニ對シ不當利得ニ基ク返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス各破産債權者カ比較的多額ノ配當額ヲ受取リタルニハ財團債權喪失ノ結果トシテ毫モ不當利得ト認ムルコトヲ得ザレバナリ然レドモ管財人ハ其知ル財團債權ニ關シテハ假令其債權者ヨリ之ヲ認識セシムルコトハ適當ナル手續ヲ悉サザリシ場合ト雖モ職權ヲ以テ之ヲ斟酌シ破産財團ヨリ辨濟ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ管財人カ其義務ニ違背シズル財團債權ニ對シ辨濟ヲ爲スヘシテ破産財團ノ配當ヲ完了シタルトキハ財團債權者ハ第一ニ管財人ニ對シ之

力爲ノ被リタル損害賠償ヲ請求スルノ權利ヲ有シ第二ニ客觀的ニ不當ノ配
 當ヲ受ケタル各破産債權者ニ對シ財團債權ノ完済後ニ受クヘカクシ配當額ヲ
 其完済前ニ受ケタル多額ノ配當額ヨリ控除シタル差額ニ付キ利得シタルモノ
 ノ返還ヲ請求スルノ權利ヲ有シ民法第七〇三條第七〇四條第七〇四條第七〇四條
 破産財團カ各財團債權ヲ完済スルニ不足ナル場合ニ於テ管財人カ法定ノ順
 位ヲ無視シ又ハ債權額ノ割合ニ依ラズシテ爲シタル辨濟ヲ受ケタル他ノ財團
 債權者ニ對シ其餘分ニ受ケタルモノニ付キ不得利得ニ基テ返還ノ請求權ヲ有
 シ民法第七〇三條第七〇四條第七〇四條第七〇四條第七〇四條第七〇四條
 規定ニ從ヒ不當利得ニ基テ返還請求權ヲ有ス蓋シ財團債權ハ破産債權者團體
 ニ對スル債權ニシテ破産財團ヨリ辨濟スルモノナリ以テ配當ニ依ル破産
 手續ノ終結後破産者ニ交付スヘキ財産ハ財團債權ヲ辨濟シタル殘額ナルコト
 ヲ要ス隨テ破産者カ管財人ヨリ財團債權ニ付キ未タ辨濟ヲ爲テ文アリシ破産財
 團ヲ受取リタルトキハ斯ル辨濟額ニ付キ不當ノ利得ヲタルモノト謂フタルヲ
 得ナリヘナリ(四)管財人カ財團債權ノ存在ヲ知ラズ隨テ之ニ辨濟ヲ爲テシテ

變更ヲ申請ラ不當ナリトシテ之ヲ抗告裁判所ニ送付シ來リタルトキ又ハ抗告
 人カ急迫ナル場合ナリトシテ直接ニ抗告裁判所ニ抗告ヲ提起シタルトキ始メ
 テ抗告ニ付テノ審理手續ヲ開始スヘキモノナリ但最後ノ場合ニ於テハ抗告裁
 判所ハ抗告ニ付キ裁判ヲ爲ス前ニ先ツ原裁判所又ハ裁判長ノ意見及ヒ記録ノ
 送付ヲ要求スルコトヲ得ヘシ又事件ヲ急迫ナラスト認メタルトキハ普通ノ手
 續ニ依ラシムル爲メ原裁判所又ハ裁判長ニ其事件ヲ送付シ更ニ其裁判所又ハ
 裁判長カ抗告ヲ理由ナシトシテ意見ヲ付シ其事件ヲ送り來ルヲ待テテ審理ヲ
 開始スヘキモノナリ此場合ニ於テハ事件ヲ原裁判所又ハ裁判長ニ送付シタル
 旨ヲ抗告人ニ通知セザルヘカラス第四六二條面シテ抗告裁判所ニ於テハ通例
 口頭辯論ヲ經ス書面ニ依リ審査ヲ遂ケ裁判ヲ爲スヘキモノトス但抗告裁判所
 ハ適當ト認ムルトキハ抗告人ト反對ノ利害關係ヲ有スル者ニ抗告ヲ通知シ書
 面上ニ陳述ヲ爲サシメ之ヲ參酌シテ裁判ヲ爲セヨトテ得右關係人ノ陳述ハ抗
 告カ元來口頭ヲ以テ爲シ得ラレヘキ場合ニ於テハ亦口頭ヲ以テシ裁判所書記
 ヲシテ調書ニ記載セシメテ之ヲ爲スコトヲ得ヌ又抗告裁判所ハ抗告人及ヒ反

對ノ利害關係人ヲシテ口頭辯論ヲ爲サシムルコトヲ適當ト認ムルトキハ其期日ヲ定メテ之ヲ呼出シコトヲ得ヘシ而シテ抗告人ハ口頭辯論ニ於テ不服ノ申立ヲ明確ニスルハ勿論之ヲ變更シ擴張スルコトヲ得ヘク又新ナル事實及ヒ證據方法ヲ申出ツルコトヲ得ヘシ此口頭辯論ハ所謂任意的ノモノニシテ之ニ必要的口頭辯論ニ關スル規定ヲ適用スヘカラス即チ當事者ノ雙方又ハ一方カ出頭セザルモ訴訟ヲ休止ト爲リ又ハ關應判決ヲ受タルコトナク抗告裁判所ハ其雙方出頭セザルトキハ書面ノミニ基キ一方ノ出頭シタルトキハ書面及ヒ其一方ノ陳述ニ基キ雙方ノ裁判ヲ爲スヘキモノナリ反對ノ利害關係者カ書面上ノ陳述ヲ促テシタルニ拘ハラス之ヲ爲ササル場合モ亦直接ニ何等ノ不利益ナル推定ヲ受タルコトナシ(第四六二條)

抗告裁判所ハ常ニ抗告ノ適法ナルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ調査シ若シ其要件ノ一ヲ缺タトキハ抗告ノ實體上ノ當否ニ付キ判斷ヲ下スコトナク直チ之ヲ不適法トシテ棄却スルヲ裁判ヲ爲スヘキモノナリ之ニ反シテ抗告ヲ適法ナリト認メタルトキハ茲ニ始メテ抗告カ實體上理由アルヤ否ヤヲ審査ヲ爲スコトヲ要ス

シ而シテ其理由ナシト認メタルトキハ抗告棄却ノ裁判ヲ爲スヘク(第四六三條)理由アリトスルトキハ原裁判ヲ廢棄シタル上場合ニ從ヒ更ニ自ラ裁判ヲ爲スカ又ハ其不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ委任シテ裁判ヲ爲サシムルコトヲ得此二者ノ一ヲ選ムハ一ニ抗告裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ便宜トスル所ニ從フモノニシテ法律上其場合ノ限定セラレタルニ非ス委任ヲ受ケタル下級裁判所又ハ裁判長ハ控訴審若クハ上告審ヨリ訴訟事件ノ差戻ヲ受ケタル下級裁判所ト同シク原裁判廢棄ノ理由タル抗告裁判所ノ事實上及ヒ法律上ノ判斷ニ驅束セラルヘキハ勿論ナリ抗告裁判所ノ裁判ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ通知スヘキモノトス(第四六四條)

第四編 再審

總論

再審トハ確定ノ終局判決ニ由リテ結了シタル訴訟事件ニ付キ其判決ヲ爲シタ

ル裁判所ニ於テ再ヒ其判決ノ當否ヲ審査スル手續ヲ課スル其旨也凡ソ終局判決ノ確定シタルトキハ其效力ニ因リ第四百九十七條ニ定ムル如ク常ニ強制執行ヲ爲シ得ヘキモノナレトモ尙ホ實際或場合ニ於テハ確定ノ終局判決トシテ其效力ヲ有スルモノト雖モ之ヲ攻撃シテ變更ヲ求ムルコトヲ許スノ必要アルヲ免レス是レ即チ再審手續ノ規定アル所以ナリ然レトモ再審ノ訴ハ固ヨリ上訴ニ非サルヲ以テ上訴ト同一ノ效力ヲ生セズ確定判決ハ再審ニ依リ取消サルルマテハ依然確定力ヲ有シ而シテ其確定力ハ再審ノ訴ニ依リテ何等ノ影響ヲ受クルモノニ非ス隨テ之ニ基テ強制執行ハ當然停止セラズルモノニ非ス唯再審ノ訴ヲ提起シタル者ハ第五百條ノ規定ニ從ヒテ強制執行ノ停止ヲ求ムルコトヲ得ルニ過キヌ又再審ノ手續ハ再審ノ訴ノ提起ニ依リテ新ニ開始スヘキモノニシテ其辯論及ヒ裁判ハ不服ノ申立ノ範圍内ニ限定セラルルモノナレトモ再審ノ訴ニ因リテ更ニ繫屬スヘキ事件ハ不服ノ申立アル確定判決ニ因リテ一旦終了シタル訴訟ニ外ナラザルヲ以テ其判決ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ專屬シ合意ヲ以テ之ヲ他ノ裁判所ノ管轄ニ屬セシムルコトヲ得ヌ故ニ

先テ第一審判決ニ對シ控訴ヲ爲サシテ其判決ノ確定シタル場合ニ於ケル再審ノ訴ハ常ニ第一審裁判所ノ管轄ニ專屬シ次ニ第一審判決ニ對シ控訴ヲ爲シ控訴審ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲サシテ其判決確定シタル場合ニ控訴審ノ判決ヲ控訴ヲ不適法ナリトシテ棄却シタルモノナレトキハ第一審ト控訴審トノ二箇ノ獨立ノ確定判決ヲ生シ第一審ノ確定判決ニ對スル再審ノ訴ハ第一審裁判所ニ控訴審ノ確定判決ニ對スル再審ノ訴ハ控訴裁判所ニ專屬ス之ニ反シテ控訴ヲ理由アリトシテ第一審判決ヲ變更シタルモノナレトキハ第一審判決ハ爲メニ消滅シ控訴審ノ確定判決ノミ存スルカ故ニ之ニ對スル再審ノ訴ハ控訴裁判所ニ專屬ス又控訴ヲ實體上理由ナシトシテ棄却シタルトキハ即チ其判決ハ實質上第一審判決ト全然同一ニ出テ而シテ第一審判決ニ代リタルモノト謂フヘキヲ以テ此場合ニ於ケル再審ノ訴ハ亦控訴裁判所ノ管轄ニ專屬スルモノナリ若シ又控訴ニ依リ第一審判決ノ一分ニ付テヌミ不服申立ヲ爲シ控訴裁判所ノ判決ヲ受ケ他ノ不服申立大キ第一審判決ノ部分確定シタルトキハ之ニ對スル再審ノ訴ハ第一審裁判所ノ管轄ニ專屬スルモノ勿論ナレトモ此場合ニ控訴

審ノ判決ニモ亦再審ノ原因アリテ再審ノ確定判決ニ對シ再審ノ訴ヲ提起スル
トキハ控訴裁判所ニ於テ併セテ專屬ニ管轄ス控訴裁判所カ差戻ノ判決ヲ爲シ
之ニ依リテ第一審裁判所カ更ニ判決ヲ爲シ而シテ兩判決確定シタルトキハ其
各判決ニ對スル再審ノ訴ハ獨立シテ各裁判所ノ管轄ニ專屬ス次ニ控訴審ノ判
決ニ對シ上告ヲ爲シ上告裁判所ニ於テ上告棄却ノ判決ヲ爲シタルトキハ上告
ヲ不適法トシタルト又理由ナシトシタルト同ハ區別ニ一箇ノ獨立シタル判
決ヲ生シ之ニ對スル再審ノ訴ハ上告裁判所ノ管轄ニ專屬ス若シ上告裁判所カ
控訴裁判ノ判決ヲ破毀シ事件ヲ控訴裁判所ニ差戻シ又ハ他ノ同等ナル裁判所
ニ移送シタルトキハ此判決ノ外更ニ第二審ノ確定判決ヲ生スルコトアリ又上
告裁判所カ控訴裁判所ノ判決ヲ破毀シ事件ニ付キ自ラ判決ヲ爲シタルトキハ
唯一箇ノ判決ヲ生スヘク第一審裁判所ニ差戻ノ判決ヲ爲シタルトキハ亦數箇
ノ確定判決ヲ生スルコトアルヲ以テ各判決ニ再審ノ原因アルトキハ何レモ前
同様其判決ヲ爲シタル各裁判所ニ再審ノ訴ヲ專屬管轄權ヲ生ス

區裁判所カ督促手續ニ於テ支拂命令ニ付キ發シタル執行命令ハ關府判決ニ同

シキヲ以テ其確定シタルトキハ之ニ對シ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘク而シテ
其訴ハ通常之ヲ發シタル區裁判所ノ管轄ニ專屬スルモ若シ其請求ヲ付キ區裁
判所カ管轄權ヲ有セザルトキハ其請求ヲ管轄スル裁判所ニ專屬ス(第四七二
條)

第一章 再審ノ訴ノ種類及ヒ事由

再審ノ訴ニハ二種アリ一ヲ取消ノ訴ト謂ヒ他ヲ原狀回復ノ訴ト謂フ此區別ハ
其之ヲ許ス原因ノ性質上ノ差異ニ基キ設ケ名ズルモ實ニ對テ其手續ニ亞リテハ
二者ノ間ニ差異アルニ非ス而シテ其訴ヲ許ス事由ハ何レモ法律ノ明文ヲ以テ
之ヲ限定セリ

第一節 取消ノ訴

取消ノ訴ハ不服アル確定判決ヲ爲シタル裁判所ノ訴訟手續ニ重大ナル瑕疵アリ
タルトキニ起スルモノニシテ其場合ハ左ノ如シ(第四六八條)

第一 適法ニ判決裁判所ヲ構成セザルニ付、或ハ第四八八條
 第二 法律ニ依リテ職務ヲ執行ヨリ除外セズレバ、此等判決ニ參與シタル
 トキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除外ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシト
 キハ此限ニ在ラス

第三 判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請カ理由アリト認メラレタルニ拘ハラズ
 裁判ニ參與シタルトキ、其等ノ審判ノ事由ハ、其等ノ審判ノ原文ニ以テ
 第四 訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシ
 右四箇ノ原因アルトキハ各當事者ハ之ニ基キテ取消ノ訴ヲ起スコトヲ得ルヲ
 原則トスレトモ第一第三ノ場合ニ於テハ上訴若クハ故障ヲ以テ其原因ヲ主張
 シ得ヘカリシトキハ取消ノ訴ヲ許サス故ニ上告審ノ非關席判決ノ如キ絕對ニ
 故障又ハ上訴ヲ爲スコトヲ得タル判決ニ右ノ原因アルトキハ勿論取消ノ訴ヲ
 起スコトヲ得ヘキモ其他ノ判決ニ付テ元來故障若クハ上訴ヲ爲シ得ヘキモノ
 ナルトキハ當事者カ過失ナクシテ右原因アルコトヲ知ラザリシカ爲メ故障若

ク爲ス其執行文ノ付與カ裁判長ノ命ニ依ルト又裁判長カ職務ヲ審訊シ
 タルト否トヲ問フコトナシ公證人カ付與シタル執行文ニ對スル異議ノ申立ノ
 管轄ハ第五百六十二條第二項ノ規定ニ依リテ定マラル此申請ノ目的ハ強制執行
 フ許サストノ宣言ヲ求メ強制執行ヲ既ニ始マラタル場合ニ於テハ之ヲ停止シ
 且其既ニ爲シタル執行應分ヲ取消ス旨ノ決定ヲ得テ執行力アル正本ノ效力ヲ
 失ハシメントスルニ存シ此訴ノ理由トシテハ或ハ執行文ノ付與ニ際シ之ニ必
 要ナル形式的ノ條件ヲ欠缺スルコト例ヘハ判決カ未タ確定セザルコト、其言渡
 ナカリシコト、執行文ノ付與ニ必要ナル裁判長ノ命令ヲ經タルコト其他承擔カ
 裁判所ニ明白ナラザルモノ拘ヘラス證明書ヲ提出ヲ待タズシテ執行文ヲ付與シ
 タリトノコトヲ理由トスルコトヲ得ヘク又其理由ハ實體的ノ性質ヲ備フルコ
 トヲ得ヘシ例ヘハ其執行文ノ付與ニ必要ナル形式上ノ證明ハ之ヲ拘ハラ
 ス實際ニ於テ例ヘハ證明セラレタルカ如キ當事者間ニ承認ノ事實存在セスト
 ノコト又成就シタリトシテ證明セラレタル條件カ實際ニ於テ成就セストノコ
 トヲ理由トスルコトハ如レ

主張スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ同一手續ニ於テ之ヲ主張シ得ヘク且訴ノ原因ノ變更ト爲ラストハ「ブランク」ノ主張スル所ナリ

第二 手續

此異議ノ訴ノ提起ハ強制執行ノ開始又ハ續行ヲ妨クルコトヲ得ヘカラス隨テ之ヲ妨ケントスル者ハ之カ爲メノ申請ヲ爲シ裁判所ノ決定ヲ受クルコトヲ要ス(第五四七條)其申請ハ受訴裁判所ニ之ヲ爲シ其理由ヲ疏明スヘク受訴裁判所ハ之ニ對シ口頭辯論ヲ經ルコトヲ要セス債務者カ訴ニ依リ主張シタル異議ニ關スル判決ノ言渡アルマテ決定ヲ以テ一時ノ處分ヲ命スルコトヲ得ヘク急迫ナル事情ノ存在ヲ疏明スルトキハ執行裁判所モ亦同様ノ處分ヲ命スルコトヲ得ヘシ而シテ此訴ニ付キ終局判決ヲ爲ス場合ニ於テハ執行ニ關シテ發シタル假ノ處分ニ付キ第五四八條ニ從ヒテ處分スルコトヲ要ス(第五四八條第五一一條)執行ノ條件又ハ當事者ノ承認ノ事實カ異議ノ訴ニ對スル判決言渡ノ當時又ハ第二審ニ至リ到來セハ執行交ノ付與ヲ取消スルルノ訴ハ其理由ナキニ歸スト雖モ右ノ條件又ハ事實ノ到來前ニ於ケル執行行爲其モノハ無効ナ

第三款 請求ニ關スル第三者ノ異議ノ訴

第一項 一般

第一 性質
強制執行ノ開始實行ニ依リ權利ヲ侵害セラルヘキトキハ第三者モ亦之ニ對シ異議ヲ唱ヘ以テ其利益ヲ保全スルコトヲ得ルハ法律ノ認ムル所ニシテ其手段トシテハ或ハ申請ノ形式ニ依リ強制執行ノ方法ニ關シ若クハ強制執行ニ際シ執達吏ノ遵守スヘキ手續ニ關シテ異議ヲ主張シ以テ執行機關ノ行爲ヲ攻撃スルコトヲ得ヘク又或ハ訴ノ形式ニ依リ執行裁判所ニ於テ執行ノ目的物ノ讓渡又ハ引渡ヲ妨クル權利ノ存在ヲ主張シ得ヘク又或ハ債權者カ差押ヘタルモノノ賣得金中ヨリ優先ノ辨濟ヲ受クルノ權利アルコトヲ主張スルヲ得ヘシ(第五四九條第五六五條)
第三者カ異議ノ訴ニ依リ主張スル請求ハ既ニ開始アリタル強制執行ノ方法ニ

對スルモノニシテ其執行ノ目的物ノ上ニ存在スル自己ノ私權主張スルモノト又其結果トシテ此目的物ヲ債權者ノ辨濟ニ充ツルコトヲ妨クルノ權利アルコトヲ主張スルコトヲ合ム此訴ノ原因ハ異議ヲ申立ツル權利ノ發生スルニ至ラズル事實ニシテ此訴ノ申立ハ既ニ開始セラレタル強制執行ヲ許シテ力ヲ及ルモノトノ宣言ヲ求ムルカ又ハ原告ノ優先權ヲ侵サズルモノトモ限り辨濟ニ充ツルモノトヲ許ス旨ノ宣言ヲ求ムルニ在リ異議ハ並進異議ニ對シテ執行機關ノ決定ヲ覆スル此訴ハ強制執行ヲ求ムル債權者ニ對シテ之ヲ提起スルモノトシテ執行機關ニ對シテ之ヲ爲スモノニ非ス而シテ原告ノ執行ヲ得ヘキ勝訴ノ判決ヲ得タルトキニ於テ始メテ執行機關ノ行爲ヲ違法トシテ取消シタルモノト得ルモノトス(第五〇條第一號第五一條)隨テ債權者タル被告ハ私法上ノ給付ヲ爲スノ判決ヲ受クルコトヲ唯其權利ノ辨濟ヲ目的トスル強制執行ノ取消若クハ制限ヲ甘受スルノ判決ヲ受クルコトアルノミ

次ニ異議ノ訴ハ之ヲ敗訴者タル債權者ノミニ對シテ提起スルコトヲ許スモノトモハ縱令其訴ニ於テ勝ヲ得ルモ其間債權者ノ財產ハ既ニ債權者ノ權利所ト

爲テ何等ノ實益ヲ生ズ其目的ヲ失フニ至ラズキヲ以テ法律ハ此ノ如キ訴ヲ許サズト雖も同時ニ債權者並ニ債務者ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ原告ニ許ス然レトモ此兩者ハ必スシモ常ニ之ヲ共同被告ト爲ラサルヘカラサルモノニ非ズ何トナルモ管レ債權者ノ唯ニ對シ勝訴ノ判決ヲ得ハ債務者カ此異議ノ原因タル權利ヲ爭フト否トハ債權者ノ發意ニ因リ其者ヲ爲ズニ開始スルモノトモ又債務者ノ異議ヲ訴テ被告タル債權者ノ勝敗ニ依リ利害ノ關係ヲ有スルトキハ之ヲ疏明シテ從參加人ト爲ルコトヲ得ルモノト論ナリ此ノ如キ利益ノ存在スル場合ハ例ハ異議ノ訴ニ於テ債權者カ更ニ勝訴ヲ得ルトキハ其爭ハ目的タル物件其物ニ依リ辨濟ヲ受ケ隨テ之ニ依リ債務者ノ所有ニ關係ル他ノ有價物ニ執行ノ及フコトヲ避クルヲ利益アル場合ノ如キ又ハ債權者カ勝訴ノ判決ヲ得テ辨濟ノ目的物ニ依リ辨濟ヲ受タルトキハ債務者ノ爲メハ異議ノ訴ヲ原告タル第三者ニ對スルモノモ更ニ不利益ナル債權例ハハ利息ノ一層高キ又ハ擔保附ノ如キノ辨濟ニラルヘキ場合ノ如シ然レトモ又法律ハ同時ニ債權

六十五條ノ場合ニ於テハ 第三者ニ賣得金申ヨリ辨濟ヲ受ク又ハ其辨濟ヲ拒ミ
ニセテ申出ル後ニ於テ強制執行ノ續行ヲ許ス其モ若シ然レトモ若シ之
反シテ判決ヲ履行シテ不利無損トシ其債權者ノ委託被執人ニ命ぜられ
取消シ強制執行ヲ許ス旨ヲ宣示スルハ債權者ノ委託被執人ニ命ぜられ
強制執行ヲ續行シテモ以上二ノ場合ニ於テモ實體法ニ從
テ同一ノ當事者間ニ歸室ノ訴ヲ以テ更ニ執行シ得ル物尠ク其代價ヲ求ムル
コト之ヲ妨グルコト則チ前ニ述ベタル終局判決ヲ履行力無シ此請求及以テ
否限ハ判決ノ内容ニ從ヒテ決シ得ルモノニ非ズ然レトモ執行文ハ
執行ノ目的ニ依リ且此物ハ執行ノ目的ニ依リ且此物ハ執行ノ目的ニ依リ
第五百四十九條ニ依リ異議ノ訴
第二項 第五百四十九條ニ依リ異議ノ訴
第五百四十九條ニ依リ異議ノ訴ハ強制執行ノ目的物ヲ付託第三者カ其債權者
ハ引渡ヲ妨グル私權ヲ存在スルニ由リ且此物ハ執行ノ目的ニ依リ且此物ハ執行ノ目的ニ依リ
債權者ノ請求ヲ辨濟シ利用者トシテ其債權者ノ請求ヲ辨濟シ利用者トシテ其債權者ノ請求ヲ辨濟シ

主張ヲ基礎トスルモノナラズ且此物ハ執行ノ目的ニ依リ且此物ハ執行ノ目的ニ依リ
法律ノ規定ニ依リハ異議ノ訴ニ對シテ執行ノ目的物ノ讓渡者カ引渡ヲ妨グル
權利ヲ有スルコトヲ要スルカ故ニ此訴ハ執行ノ狀態ヲ付スルモノニ非ズ其執行
ノ目的物ヲ讓渡スルコト即チ其權利ヲ移轉スルニ依リ且此物ハ執行ノ目的ニ依リ且此物ハ執行ノ目的ニ依リ
債權者ニ引渡スコトニ依リテ債權者ニ満足スルニ足ルモノニ非ズ然レトモ執行文ハ
ルヘキモノタルコトヲ知ルニ足ルモノニ非ズ然レトモ執行文ハ
シテ更ニ必要ナルヤ否ヤノ問題ハ單ニ民法ノ觀念ニ從ヒテ決シ得ルモノニ非ズ
引渡シ執行ノ當時債務者ノ財産ニ屬スル物件ヲ悉ク債權者ノ財産ニ移轉スル
又ハ之ヲ第三者ニ移轉シ其賣得金又債權者ニ與ルモノニ依リ且此物ハ執行ノ目的ニ依リ且此物ハ執行ノ目的ニ依リ
引渡シ執行ノ當時債務者ノ財産ニ屬スル物件ヲ悉ク債權者ノ財産ニ移轉スル
足レシメシメカ爲メニ動産又ハ不動産ヲ第三者ニ讓渡セントシテ差押フル場合
ノモノナラス債權者カ例ヘハ賣買交換貸借等ニ依リ債務者ニ對シ物ノ引渡ヲ
受タルノ請求權ヲ有スル場合ニ於テ之ヲ満足スルコトヲ爲メ其目的物ノ債權者

者ヨリ奪ヒテ債權者ニ移轉シ且之ニ因リ從來債務者ガ其物ニ付キ有シタル債權ヲ債權者ニ移轉スル場合ニ其適用ヲ見ル

第二 要件

法律ノ規定ニ依レハ異議ノ訴ハ原告タル第三者ガ目的物ノ讓渡即チ債權ノ移轉又ハ引渡ヲ妨クヘキ債權ヲ有スルコトヲ要ス隨テ原告タル第三者ノ有スル債權ノ性質ニ付テ謂フトキハ其債權ハ執行機關ガ債務者ノ財産中ヨリ執行ノ目的物ヲ奪ヒテ之ヲ債權者ニ移轉スルコト若クハ其目的物ノ對シテ代金ヲ支拂フ他人即チ強制競賣手續ニ於ケル買主ノ財産申出之ヲ移スコトヲ妨クルノ權利タルコトヲ要ス

(甲) 原告タル第三者ノ主張スル債權ハ依レテ執行ノ目的物ニ債務者ノ財産ニ屬セスシテ唯債務者ノ支配内ニ存スル場合タルコトヲ得シ而シテ此場合ニ於テハ原告タル第三者ノ債權ガ如何ナル性質ヲ存スルモ原告タル第三者ノ債權トナシ隨テ單純ニ所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘキ要諦使用貸借貸借等少數キ債權關係ニ基キ債務者ノ權力内ニ目的物ノ存在スル旨ヲ主張スルコト

ヲ得ヘキ要スルニ第三者ノ債權ガ敗訴者ニ對シ單純ニ目的物ノ引渡ヲ求ム得ルモノタルヲ以テ足ル換言スレハ強制執行ノ目的物カ事實上債務者ノ處分權内ニ存スルモ法律上其財産ニ屬セザルモノタルヲ要ス然レトモ之ニ反シテ第三者ノ債權カ例ヘハ貸借ヨリ生シ單ニ債務者ヲシテ其目的物ヲ自己ニ引渡サシムルノ債權ヲ生スルニ止マル場合ニ於テハ之ヲ以テ異議ノ訴ノ原因ト爲スニ足ラス何トナレハ其目的物ハ管ニ事實上債務者ノ權内ニ存在スルノミナラス法律ニ於テモ亦其權内ニ存スルモノタルコト明カナレバナリ而シテ簡便ノ場合ニ於テ第三者ノ主張スル債權カ債務者ニ原告タル第三者ニ對シテ目的物ノ引渡ヲ爲サシムルヲ義務ヲ生スルキ又ハ之カ讓渡後債務者ノ義務ヲ生スルキハ實體法ニ依テ決定スルニ屬ス要スルモ訴訟法上ニ於テハ其前段ノ場合ニ於テハ異議ノ訴ハ理由ナルモノニシテ第二段ノ場合ニ於テハ其理由ナキモノト謂フヘシ

右ト同一ノ理由ニ依リ執行ノ目的物カ債權者ノ財産ニ屬セシモ前掲起點當時ニ於テハ同人ニ屬セス隨テ債務者ニ於テ之ヲ讓渡シ若クハ引渡スル場合

ハカナルモノナリトノ事實カ第三者ニ主張スル權利無効ニ若認シ得ル場合ニ於テハ又之ヲ以テ異議ノ訴ノ理由ト爲スコトヲ得ル例ハ前記ノ如ク有テ改定債權ノ讓渡等ニ因リ執行ノ目的物カ原告タル第三者ニ移リタル場合ノ如シ

(乙) 讓渡又ハ引渡ヲ妨グル第三者ノ權利ハ之ニ依リテ債權者ハ財產無屬ニ爲ル目的物ヲ他人ノ財產ニ移スコトヲ不能ナクシタル權利カ在リテ是等ノ結果ニ至ル前ニ陳フルカ如シト雖モ此他人ハ債權者タルト又ハ其他強制執賣手續ニ於テ代金ヲ支拂フ買主タルト否トヲ問フ所トナシテ第三者ハ主張スル權利ハ其結果讓渡又ハ引渡ヲ無効ト爲スニ足ルモノナラザルヤ民法ニ從テ決シテ之ニ問題ナリト雖モ第三者ハ蓋押ヲ受クル物ニ付テ單ニ物上ノ擔保權又ハスルモ差押ヲ妨グルコトヲ得サルハ法律ノ規定スル所ナリ第五五六條ノ規定ニ依

第三項 第五百六十五條ニ依ル異議ノ訴

第一 性質 凡ハ以テ債權者ニハ強制執行ノ目的物ノ拍賣ノ對價者ノ債權者ノ異議ノ訴此訴ハ前者ニ比シ其適用ノ範圍狹小債權者ノ金錢債權自擔保ノ受取ル者

債務者所有ノ動産ニ對シ差押ヲ爲ス場合ニ於テ其適用ヲ見ル而シテ此目的物ニ付テ物上ノ擔保權ヲ有スル第五者ハ其目的物ヲ占有スル所トシテ第五百六十七條ノ規定ニ從テ之ヲ提出シ拒マサル限リ差押ヲ爲シ得ルモノナラシメテ其第三者ノ提出シ拒ミ其差押ヲ拒ムコトヲ得ルハ其權利モ之ヲ以テ法律ハ其利益保護ニ於テ爲スニ差押物ノ賣得金ニ付テ優先シテ差押ヲ受クル權利ヲ付與スルモノナリ然レドモ此訴ハ物上擔保權ヲ有スル第三者起スルコトヲ得ルモノナリ勿論ナリテ其權利ノ範圍ハ之ニ限リテ之ニ對シテ

(甲) 前記訴ニ於テ原告ト爲ル第三者ハ差押ノ目的タル動産差押キ自己ノ擔保債權ノ差押ヲ擔保スル權利ヲ有スルモノナリ此權利ハ存在スル結果自己對テスル差押ナキ間ニ執行ノ目的物ヲ賣却シテ得タル金額ニ對シテ差押債權者對テ自己ノ優先テテ差押ヲ受ケルモノコトヲ許ササルノ權利ヲ有スルコトヲ主張ス

第二 收入 其ニ充テタルカ爲メ左ノ諸財源ニ收入ヲ求ムルモノナリ

(一) 國庫及ヒ府縣ヨリノ補助金

(二) 自己ノ收入 田賦ノ外ニ

(三) 郡ノ營造物及ヒ財産ノ使用料

(四) 特ニ一箇人ノ爲メニスル手数料

(五) 過料 過料 過料

(六) 郡有財産ノ收入 寄附金 其他私法上ノ雜收入

町村ヘノ分賦金

郡ノ支出ニシテ財産ノ收入其他ノ諸收入ヲ以テ充ツルニ足ラザルトキハ其不足金ヲ町村ニ分賦ス郡ニ於テハ市町村及ヒ府縣ト異ナリ直接ニ郡ノ住民ニ對シ郡稅ナルモノヲ賦課スルコトナシ是レ普通西ノ州ニ於ケルト同一例ニ依ルモノナリ而シテ分賦ノ割合ハ各町村直接國稅府縣稅ノ徵收額ニ依ルモノナリトモ時トシテ不均ニ分賦スルコトヲ得ルモノナリ(郡制第九一條蓋シ町村ニ

分賦スルノ制ハ租稅ノ課目多クナルトキハ行政廳及ヒ人民兩者ノ煩ヲ招クカ爲メナリ此等ノ收入ニシテ尙ホ不足スルトキハ公債又ハ一時ノ借入金ヲ爲シ得ルコト市町村ノ例ニ同シキナリ

第三 會計

郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シク其年度開始前ニ郡長豫算ヲ調製シ之ヲ郡會ノ議決ニ付スヘキモノナリ其豫算中ニハ豫算超過ノ支出又ハ豫算外ノ支出ニ充ツル爲メ豫備費ヲ設クヘキモノニテ其豫備費ニ付テハ郡會ニ於テ否決シタル費用ニ充ツルコトヲ得スト定メラレタリ郡制第九六條第九九條又豫算ノ追加更正ハ勿論繼續費ノ豫算ヲ立テ又必要ニ應シテ特別會計ヲ設ク得ルモノナリ(郡制第九七條第九八條第一〇一條)

郡ノ決算ハ郡長之ヲ翌年ノ通常郡會ニ報告スヘキモノニテ若シ郡會ニ於テ其決算ヲ違法ト認ムルトキハ官廳ニ對シテ意見ヲ述ブルコトヲ得ルモノナリ

第六項 郡ノ監督

監督ノ大體ノ原則ハ市町村ニ於ケルト同シ郡ノ監督機關ハ第一次ニ府縣知事、第二次ニ内務大臣之ヲ行フモノニテ郡有重要物件ノ處分使用料手数料ノ新設、増加及ヒ郡債ヲ起スコトニ關シテハ第二次ヲ監督官廳ノ許可ヲ要シ積立金額ノ設置處分寄付若クハ補助ノ行為ノ不動產ヲ處分急迫ノ場合ニ非テ先役現品ノ賦課繼續費ノ設定特別會計ヲ設置等ニ關シテハ府縣知事ノ許可ヲ要スルモノナリ其他行政裁判所府縣參事會モ間接ニ郡ノ監督ヲ爲スル例ハ郡制第二十三條第六十九條第八十三條第八十七條第九十三條第九十四條ノ場合ノ如シ

第七項 郡ノ組合

郡ニ組合ヲ許スノ必要アルハ町村ニ於ケルト同シテ而シテ郡組合ノ公法人タルコトハ郡制第七條ニ明文ヲ以テ定メラレタリ又郡ノ組合ハ二以上ノ郡ヲ以テ組織セラレルモノニテ郡ノ一部トテ以テ郡組合ヲ組織スルコトヲ得タルモノナリ郡ノ組合ヲ設置スルノ手續ハ府縣知事關係郡參事會ノ意見ヲ

聽キ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ムルモノナリ郡組合ノ議決機關ハ郡組合會ニテ其組織及ヒ組合管理者ノ資格並ニ組合管理方法ハ組合ノ設置ト共ニ定メラレ組合費用ノ豫算方法組合費用ノ負擔割合及ヒ徵收方法組合財産管理法、組合解散後ノ財産ノ處分方法等ノ如キモ亦組合ノ設置ト共ニ併セ定メラルモノナリ而シテ組合ノ設置ト共ニ定メラルモノノ外ハ郡制中ノ規定ヲ郡ノ組合ニ準用スルモノナリ例ヘハ郡組合會ノ議決方法郡組合會ノ議員定足數郡組合ノ豫算決算組合ノ收入徵收ノ方法負債募集ノ制限ノ如キ皆郡ニ關スル規定之ニ準用サルモノナリ

第四款 府縣

第一項 府縣ノ性質

府縣ハ國ノ行政區畫ニシテ又自治團體タルモノナリ然レトモ自治團體タルノ性質ニ關シテハ郡制ニ依リテ郡カ自治團體ト爲リタルト異ナリ府縣ハ府縣制ニ依リテ始メテ其自治團體タルコトヲ認メラレタルモノニ非ス其以前既ニ明

治十一年府縣會規則發布セラレタルトキ府縣ヲ法人ト爲シ其議決機關トシテ府縣會ノ設置ヲ許シ府縣ハ自ら租稅ヲ徵收シ又必要ニ應ジ負債ヲ爲シ其自治行政ヲ營ムコトヲ得ルコトヲ認メテラレタリ此狀態ハ固ヨリ府縣制施行ノ爲メ變更ヲ受ケテアリシモノナリ併シ縣ヲ法人ト明言シタルハ明治三十二年發布ノ現行府縣制ナリ國ノ行政區畫トシテノ府縣ノ沿革ハ甚タ古ク既ニ上古ニ存シ封建時代ニ於テ一時中絶シタルモ王政ノ復古ノ際諸侯其藩藩ヲ奉還スルニ及ヒ廢藩置縣ト爲リ再ヒ府縣ノ行政區畫ヲ見ルニ至レルモノナリ

第二項 府縣ノ要素

第一項區域 土地ヲ其要素ト爲スコト市町村及ヒ郡ト同シ而シテ府縣ノ區域ニハ郡市及ヒ島嶼ヲ包括スルモノナリ府縣制第一條府縣ノ區域變更ニ法律ヲ要スルコト郡ト同シク唯其例外トシテ(一)府縣ノ境界ニ當ル郡市町村境界ノ變更ヲラタムトキ(二)所屬未定地ノ市町村區域ニ編入セラレタルトキノ二場合ニ法律ノ規定ニ

依ラスシテ府縣區域ノ當然變更スルコトモ郡ニ於ケルト同シキナリ府縣制第三條(一)大ニ由リ自ニ其經費ニ負擔スル者ニ依リテ其區域ニ變更スルコトモ

第二項住民 府縣ノ住民ニ關シテモ郡制ト同シテ府縣制ニ於テ特別ノ規定ナシ然レトモ住民ノ府縣ノ團體ヲ要素タルコト市町村郡ト同シ唯之ニ關シ特別ノ明文ナキハ

市町村ノ住民ニ關スル問題ノ外新ニ特別ナル問題生スルコトナケレハナリ

第三項自治權 府縣ノ自治權ノ市町村ノ自治權ニ比シテ狭キコト郡ト等シ例ヘハ市町村ハ執行機關ヲ選任スルコトヲ得ルモ府縣ニ於テハ郡ト等シク官吏タル府縣知事ヲ

以テ執行機關ト爲スカ如シ

第三項 府縣ノ機關

第一 議決機關 府縣會

(一) 府縣會 府縣會ノ權限ハ大體都會ニ於ケルト異ナルコトナシ其組織ニ付

ヲモ郡會ノ組織ト同シタリ初メ間接選舉ニ依リシモ現行府縣制ニ於テ直接選舉
 ト之ヲ改メタリ今其議員ノ選舉權及ヒ被選舉權ヲ見ルニ府縣會議員ノ選舉權
 有スル者ハ左ノ要件ヲ具フルコトヲ要スルモノナリ

(1) 府縣内ノ市町村公民タルコト

(2) 市町村會議員ノ選舉權ヲ有スルコト

(3) 府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムルコト府縣制第六
 條及ヒ明治三十二年內務省告示第六十九號參照ス

被選舉者ノ資格要件ハ

(1) 市町村公民タルコト

(2) 市町村議員ノ選舉權ヲ有スルコト

(3) 府縣内ニ於テ一年以上直接國稅年額十圓以上ヲ納ムルコト郡制ニ比シ
 府縣制ノ選舉者及ヒ被選舉者ノ納稅資格ヲ高ク爲シタル所以ハ府縣ハ郡ヨ
 リ大ナルニ由リ自ラ多ク經費ヲ負擔シ府縣費ノ負擔ニ利害ヲ直接ニ感ス
 ルコト大ナル者ヲシテ府縣會議員ニ當ラシムヘントスルヲ爲メナリ

雜 記

○被害者ノ數ト罪數ト 法益ヲ侵害セシメタル者數人アルトシテ其數倍
 犯罪ヲ成立スルカニ有ラハ場合ニ依リテ斷定ヲ要スルモノナリ

說明スル所シテ例ニ右ノ例ニテ決意ヲ以テ同時同ニ殺シテ數人ニ屬
 スル財物ヲ竊取シテ其行爲ニ因リ害ヲ被ル者ハ數人アリ
 雖モ其行爲ニ要スルニ入リ財物ヲ竊取シタルモノニシテ犯行爲タルニ
 止リ被害者毎ニ各異別ノ犯罪ヲ構成スルモノナラズ然レトモ謀殺放殺者
 シハ謀殺ノ如ク犯罪ニ至ラハ各人ニ附著シ自他互ニ集合シ難ク人命若シ
 一名譽ヲ侵害スルモノニシテ被害者毎ニ異別ノ效果ヲ生スルモノナレハ
 合同ノ決意ヲ以テ同時同ニ場所ニ於テ數人ヲ謀殺若シハ謀殺シタリトス
 ルニ之ヲ一若シテ一謀殺若シハ一謀殺ナリト看ルヲ得ス即チ此ノ如ク場
 合ニ於テハ被害者毎ニ各異別ノ犯罪ヲ構成スルモノナリ

第一〇三九號 謀殺事件明治
 十六年六月五日第二審事部室會(三)

○同一事實ニ對スル再提ノ起訴
 檢事カ甲罪名ノ下ニ豫審ヲ求メ其未タ豫
 審決定ニ至ラザルニ當リ同一事件ニ付キ更ニ乙罪名ヲ附シテ豫審ヲ求メタリ
 トモハ其效果如何又若シ豫審判事カ其甲罪ニ對シテ免訴ノ旨渡ヲ爲シ乙罪ニ
 對シテ公判ニ移スノ決定ヲ爲シタルトキハ公判判事ハ之ヲ審理裁判スルノ義
 務アリヤ此實際問題ハ横濱地方裁判所ニ起リ檢事ハ初メ強盜殺人ノ罪名ヲ以
 テ豫審ヲ求メ後謀殺未遂及ヒ竊盜罪トシテ豫審ヲ求メタルニ豫審判事ハ強盜
 殺人罪ニ付テハ免訴ノ旨渡ヲ爲シ謀殺未遂及ヒ竊盜ノ點ニ付キ公判ニ付スル
 ノ決定ヲ爲シ終ニ大審院ノ判斷ニ上リタルモノノ如シ今同事件ニ關スル横田
 檢事長ノ上告論者ニ對スル大審院ノ説明ヲ掲ケンニ曰ク檢事長上告趣意ハ豫
 審判事ハ檢事カ豫審請求ヲ爲スニ當リ事件ニ附シタル罪名ニ依リテ竊取セラ
 ルヘキモノニアラス故ニ檢事カ本件ニ付豫審ヲ求ムルニ當リ事件ニ冠スルニ
 強盜傷人ノ罪名ヲ以テシタルモ豫審判事ハ檢事ノ附シタル罪名ニ拘ハラズ其
 事件ノ真相ハ強盜傷人ニアラスシテ謀殺未遂及竊盜ノ犯罪ヲ構成スルモノト
 認メタルトキハ謀殺未遂及竊盜罪トシテ公判ニ付スルノ決定ヲ爲サザル可カ

ラス面シテ其決定ニ基キ事件ヲ受ケタル裁判所ハ豫審判事ノ認メタル事實ニ
 拘ハラズ獨立ノ意見ヲ以テ之ヲ強盜傷人罪ト認ムルコトヲ妨ケス今本件ニ於
 テ檢事カ初メ強盜傷人トシテ豫審ヲ求メ次ニ謀殺未遂及ヒ竊盜トシテ同一事
 件ニ付キ豫審ヲ求メタルヲ以テ豫審判事ハ強盜傷人ノ點ハ免訴シ謀殺未遂及
 竊盜ノ點ハ公判ニ付スト決定シタル然レトモ事件其物ハ元ト同一ニシテ實質
 上別箇ノモノニアラス故ニ此二箇ノ決定ハ兩立セザルモノト謂ハザルヘカラ
 ス然ラハ此決定ヲ以テ全然事件ヲ免訴シタルモノト解釋センカ豫審判事カ現
 ニ其事件ニ對シ謀殺未遂及竊盜ノ犯罪アリト認メタルコトヲ如何セン故ニ此
 決定ハ事件ヲ免訴シタルモノニアラスシテ其事件ヲ謀殺未遂及ヒ竊盜ノ犯罪
 トシテ之ヲ公判ニ附シタルモノト解セザルヘカラス面シテ豫審判事カ特ニ強
 盜傷人ノ點ハ免訴スト旨渡シタルハ蓋シ檢事カ事件ニ付シタル罪名ノ不當ナ
 ルコトヲ表示シタルニ過キザルモノト看做シテ可ナリ故ニ該決定ニ效力ヲ依
 リ事件ハ當然公判ニ付セラレタルモノニシテ當院力之ニ對シ犯罪ノ有無ヲ判
 決スヘキモノナルニ豫審終結決定ヲ不當ニ解釋シ以テ公訴不受理ノ判決ヲ爲

シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ強盜傷人事件ト起訴即チ明治三十五年八月五日付横濱地方裁判所檢事ノ起訴ハ元來明治三十五年八月二日ニ作成セシレタル檢證調出ニ掲ケタル事實ニ對シ豫審ヲ求メタルコトハ該請求書ニ添付シタル附屬書類ニ依リ明白ナリトス然ルニ同地方裁判所檢事ハ明治三十五年九月十二日ニ至リ更ニ謀殺未遂及ヒ竊盜事件トシテ起訴シテ其罪狀ハ強盜傷人事件ト全ク其事實ヲ同フスルコトハ原院ノ認メタル事實ニ微シ疑ヲ容ルルキナケレハ原院カ之ニ對シ公訴不受理ノ判決ヲ爲シタルハ不當ニアラス何トナレハ一事件ニ付已ニ公訴ヲ提起シタル以上ハ其公訴ニ於テ相當ノ判決ヲ與フルニ勿論ナルヲ以テ同一事件ニ付更ニ公訴ヲ提起スルハ一ノ犯罪ニ對シ二重ニ同一被告人ニ對シ同一事件ニ付再ヒ公訴ヲ提起スルハ一ノ犯罪ニ對シ二重ニ刑ノ適用ヲ求ムルモノナレハ其不法タルヲ論テ埃タザルヲモナラヌ蓋シニ起訴セラレタル強盜傷人事件ニ付テハ豫審判事ニ於テ證據不充分タルヲ以テ以テ免訴ノ決定ヲ爲シ其決定ハ已ニ確定シタルヲ以テナリト(大審院明治三十五年六月十五日第一刑事部宣告)

國際公法戰時之部目次 移出

第四編 交戰關係ノ法則

第一章 總論

○國際公法上戰時ノ地位 ○國際公法上戰時ノ性質 ○國際公法上戰時ノ範圍 ○國際公法上戰時ノ效力

第二章 戰爭ノ定義

○戰爭ノ種類 ○戰爭ノ原因 ○戰爭ノ目的 ○戰爭ノ手段 ○戰爭ノ結果

第三章 國家間又ハ國家ト交戰國間ノ戰爭

○戰爭ノ分類 ○戰爭ノ本質 ○戰爭ノ範圍 ○戰爭ノ效力 ○戰爭ノ結果

第四章 交戰者間ノ公ナル戰爭ナリ

○政府ノ權力ニ基キテ交戰者間ノ戰爭 ○交戰者間ノ權利 ○交戰者間ノ義務 ○交戰者間ノ責任

第五章 交戰者間ノ兵力ヲ以テスル戰爭

○平時ノ國際ノ地位ハ戰爭ニシテハ如何ニシテ變ジヤリ ○戰爭ノ開始 ○戰爭ノ進行 ○戰爭ノ終結 ○戰爭ノ結果

第六章 戰爭ノ本質

○平和ハ社會文明ノ結果ナリ ○戰爭ハ社會文明ノ對立ニ基キテ起リ ○戰爭ノ本質 ○戰爭ノ範圍 ○戰爭ノ效力 ○戰爭ノ結果

國際公法平時之部目次 移出

第一編 緒論

第一章 國際公法ノ性質

○國際公法ノ範圍 ○國際公法ノ效力 ○國際公法ノ結果

第二章 國際公法ノ定義

○國際公法ノ種類 ○國際公法ノ原因 ○國際公法ノ目的 ○國際公法ノ手段 ○國際公法ノ結果

第三章 文明國一般ノ承認ニ係ル法則

○永久不變ノ法則 ○國際公法ノ範圍 ○國際公法ノ效力 ○國際公法ノ結果

第四章 國家行為ノ法則ナリ

○國際公法ノ範圍 ○國際公法ノ效力 ○國際公法ノ結果

第五章 國際公法ノ本質

○國際公法ノ種類 ○國際公法ノ原因 ○國際公法ノ目的 ○國際公法ノ手段 ○國際公法ノ結果

第六章 國際公法ノ實行

○國際公法ノ範圍 ○國際公法ノ效力 ○國際公法ノ結果

○生徒募集廣告

○入學試驗 來ル九月二日、八日、十月二日各午前八時ヨリ施行ス

○第二級編入試驗 來ル九月十九日午後一時ヨリ施行ス

右志願者ハ前日マテニ申込ムヘシ、校則入用ノ向ハ二條郵便ヲ送付スヘシ

八月

和佛法律學校

○生徒募集廣告

○入學試験 本々九月二日、八日、十日、十二日、金午前入

験ヨリ施行ス

○第二編入試験 本々九月十九日午後一時ヨリ

施行ス

右各試験ハ前日一ツア一ツ申込ニシテ、試験入用ノ紙一ツ編入試験ヲ受
付ニハシ

八月

新編

法學志林

第四十六號 (八月十五日發行)

志林

- 最近判例集(五十) 法學博士 梅田義典
- 關稅ノ續論(二) 法學士 野添子爵
- 會計法ニ關スル債權金ノ性質 法學士 中山成太郎
- 裁判所及ヒ裁判所ニ於テアル取引ニ付テ 法學士 松本 燕治
- 外國法入ニ付テ 法學博士 梅田義典
- 支拂物當否ノ判斷アルニ關シテノ債權ノ消滅 法學博士 富谷銀太郎
- 外國人ノ債權ヲ禁止シ得ルニ關シテノ現行法 法學士 秋山龍之介
- 總論ニ關シテノ理由 法學士 谷 野 繪
- 關州關稅ニ關スル論議ニ付テ 無言 學人 佐々木 敏彦

解疑

- 外債法入ニ付テ 法學博士 梅田義典
- 支拂物當否ノ判斷アルニ關シテノ債權ノ消滅 法學博士 富谷銀太郎
- 外國人ノ債權ヲ禁止シ得ルニ關シテノ現行法 法學士 秋山龍之介
- 總論ニ關シテノ理由 法學士 谷 野 繪
- 關州關稅ニ關スル論議ニ付テ 無言 學人 佐々木 敏彦

漫評

- 大體判例集(四十) 無言 學人 佐々木 敏彦
- 關稅ノ續論(一) 法學士 野添子爵
- 會計法ニ關スル債權金ノ性質 法學士 中山成太郎
- 裁判所及ヒ裁判所ニ於テアル取引ニ付テ 法學士 松本 燕治
- 外國法入ニ付テ 法學博士 梅田義典
- 支拂物當否ノ判斷アルニ關シテノ債權ノ消滅 法學博士 富谷銀太郎
- 外國人ノ債權ヲ禁止シ得ルニ關シテノ現行法 法學士 秋山龍之介
- 總論ニ關シテノ理由 法學士 谷 野 繪
- 關州關稅ニ關スル論議ニ付テ 無言 學人 佐々木 敏彦

判例

- 大體判例集(四十) 無言 學人 佐々木 敏彦
- 關稅ノ續論(一) 法學士 野添子爵
- 會計法ニ關スル債權金ノ性質 法學士 中山成太郎
- 裁判所及ヒ裁判所ニ於テアル取引ニ付テ 法學士 松本 燕治
- 外國法入ニ付テ 法學博士 梅田義典
- 支拂物當否ノ判斷アルニ關シテノ債權ノ消滅 法學博士 富谷銀太郎
- 外國人ノ債權ヲ禁止シ得ルニ關シテノ現行法 法學士 秋山龍之介
- 總論ニ關シテノ理由 法學士 谷 野 繪
- 關州關稅ニ關スル論議ニ付テ 無言 學人 佐々木 敏彦

其他

- 大體判例集(四十) 無言 學人 佐々木 敏彦
- 關稅ノ續論(一) 法學士 野添子爵
- 會計法ニ關スル債權金ノ性質 法學士 中山成太郎
- 裁判所及ヒ裁判所ニ於テアル取引ニ付テ 法學士 松本 燕治
- 外國法入ニ付テ 法學博士 梅田義典
- 支拂物當否ノ判斷アルニ關シテノ債權ノ消滅 法學博士 富谷銀太郎
- 外國人ノ債權ヲ禁止シ得ルニ關シテノ現行法 法學士 秋山龍之介
- 總論ニ關シテノ理由 法學士 谷 野 繪
- 關州關稅ニ關スル論議ニ付テ 無言 學人 佐々木 敏彦

發行所

和佛法律學校

明治三十六年八月十五日印刷
 明治三十六年八月十六日發行
 (定價金貳拾五圓)

編輯者 藤 野 之

印刷者 小 宮 山 信 雄

發行所 東京市總町區常土見町六丁目十六番地
 電話番町百七十四番

發行所 和佛法律學校

明治二十二年十二月九日創刊
 明治三十三年十一月四日三編
 明治三十四年十一月四日三編
 明治三十五年十一月四日三編
 明治三十六年八月十六日發行